

# 相国寺御用達

京銘菓

## 雲龍

雲龍は相国寺に保存されている狩野洞春の龍画に感銘を受け創作した、京菓匠・俵屋吉富の代表的な名菓です。雲龍の奥深い旨さの秘密、それは精選された材料と、一本一本心をこめて巻いていく手づくりの味にあります。心をこめた贈り物に幸福を呼ぶ雲龍をどうぞ……。



平成二十二年正月号(第九十一号)

# 図明

大本山相国寺  
相国会本部

# 賀春

平成二十一年 己丑

## ◆表紙解説

承天閣美術館事務局長 鈴木景雲

**重要文化財** 毘沙門天図 雪舟等楊筆  
室町(相国寺蔵)

毘沙門天は、四天王の中の一つで、北方多聞天として尊崇されている。また七福神の中にも数えられており、福德富貴の神として信仰されている。

一般的に左手に宝塔を載せ右手に鉾を持ち甲冑に身を固め、忿怒の武将形に表されることが多い。この図は、衣が風をはらむ様が躍動的で、雪舟ならではの、見事な描写になっている。毘沙門と踏みつけられた邪鬼の面貌が飄逸に描写されている。

雪舟等楊(一四二〇～一五〇六)は室町時代の画僧で、日本中世における水墨画の大成者。備中岡山県の生れ。若くして相国寺に入り、春林周藤について参禅、画を周文に学ぶ。後、周防(山口県)の大内氏の庇護を受け画業に専念。応仁元年(一四六七)明に渡り、本場中国の自然と水墨画技法を学び、文明元年(一四六九)帰国。周防山口に住し、その庵を雲谷庵と称した。宋・元・明の水墨画様式を個性化し、山水画・人物画のほか装飾的な花鳥画をもよくした。



## 歳旦祝語

管長 大龍窟 有馬頼底

平成二十一年

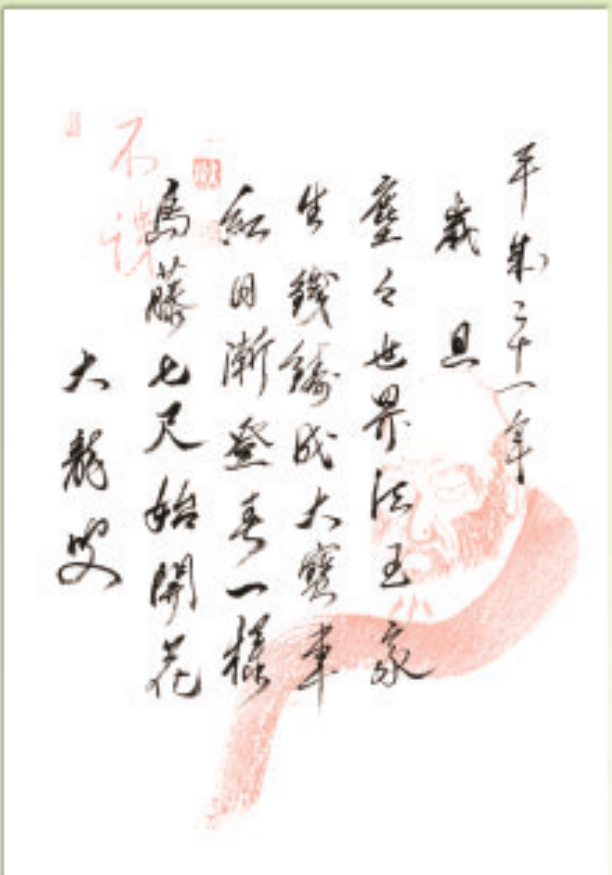
歳旦

塵々世界法王の家  
生鉄鑄成す大寶の車  
紅日漸く登る春一様  
烏藤七尺始めて花開く

大龍叟

この混乱した世界にある仏教界  
しかし鉄の意志により大乘の教えを説く  
初日がようやく登る春は一様に来た  
この主杖子にも花が咲くことである

※烏藤七尺 主杖子のこと。長さ七尺の杖  
正月法要や晋山式の折に導師がこ  
れを用いて一句唱える



# 常津寺

9月28日



江上宗務総長挨拶



総代野瀬好正氏謝辞

# 円福寺

9月28日



管長法話



記念品を受ける田中耕宗住職



総代伊藤彰氏謝辞

# 桃源寺

9月29日



記念品を受ける武田典英兼務住職



総代村田秀夫氏謝辞

# 洞昌寺

9月28日



佐分教学部長挨拶



記念品を受ける頼川孝生兼務住職



総代内谷久男氏謝辞

# 壽奎寺

9月29日



総代野口久之氏謝辞

# 西林寺

9月29日



佐分宗順教学部長



総代森嶋良宣氏謝辞



江上泰山宗務総長



二〇〇九年元旦

相国会本部長	佐分宗順	相国会副会長	波多野貞久	相国会副会長	錦織貞三	相国会副総裁	片岡匡三	相国会副総裁	江上泰山	相国会総裁	有馬頼底
管天閣美術館館長	有馬頼底	宗務総長	真如寺住職 江上泰山	庶務部長	玉龍院住職 坂根孝慈	教務部長	豊光寺住職 佐分宗順	財務部長	林光院住職 澤宗泰	法務部長	林光院住職 澤宗泰
教学・庶務部長	大光明寺住職 矢野謙堂	財務・庶務部長	普廣院副住職 山木雅晶	承天閣事務局長	長栄寺住職 鈴木景雲	承天閣参事	大應寺住職 久山弘祐	鹿苑寺執事	普廣院住職 山木康稔	執事	長得院住職 緒方香州
執事	是心寺副住職 和田賢明	執事	桂徳院住職 小塚景堂	執事	養源院住職 平塚景堂	執事	瑞春院住職 須賀玄集	相国会総裁	有馬頼底	相国会副総裁	江上泰山
相国会副総裁	江上泰山	相国会副会長	片岡匡三	相国会副会長	錦織貞三	相国会副会長	波多野貞久	相国会本部長	佐分宗順		

宗務支所長	宗務支所長	第一教区	普廣院住職 山木康稔	第二教区	竹林寺住職 牛江宗道	第三教区	本派庶務部長兼任	第四教区	善應寺住職 五十嵐祖傳	第五教区	保寿寺住職 藤岡牧雄	第六教区	光明寺住職 松本憲融
宗務支所長	宗務支所長	第一教区	普廣院住職 山木康稔	第二教区	竹林寺住職 牛江宗道	第三教区	本派庶務部長兼任	第四教区	善應寺住職 五十嵐祖傳	第五教区	保寿寺住職 藤岡牧雄	第六教区	光明寺住職 松本憲融

カラグラフィア◎円福寺・常津寺・洞昌寺・桃源寺・西林寺・壽奎寺	2	
年頭御挨拶	10	
年頭御挨拶	13	
年頭御挨拶	16	
御親教日単	19	
御親教寺院紹介(第四教区)	23	
御親教感想文	34	
円福寺檀家 一瀬正輝	常津寺総代 荒木幸作	洞昌寺総代 廣川 勲
桃源寺総代 林本幸雄	西林寺総代 児玉徳左衛門	壽奎寺(寺世話) 山内三治
海見寺檀信徒 山本 誠	壽福寺檀信徒総代役員 澤田信三	養江寺檀信徒代表 磯野益保
長養寺檀家総代 一瀬明宏	長福寺総代 鯛取 勇	
積尊の足跡を訪ねて	43	
成人の日に思うこと	57	
本山日より	62	
教区日より	72	
教化活動委員会活動報告	75	
カラグラフィア◎海見寺・壽福寺・養江寺・長養寺・長福寺	85	
◎「相国寺・金閣・銀閣名宝展」開催	90	
◎第四教区真乗寺第十七世木下雅教和尚晋山	92	



檀信徒の皆様には、つつがなく御越年のこととおよろこび申し上げます。

昨年は、何といつても、日佛交流百五十年、京都・パリ友好五十年の記念すべき年にあたり、パリ市の要請により、是非とも禅宗文化を紹介する展覧会をしてもらいたい、とのことで、パリ市立プチパレ美術館において、「相國寺・金閣・銀閣名寶展」を開催させていただいたのです。

オープニングには、裏千家の大宗匠鵬雲斎が、開山夢窓國師真前に御献茶をされ、その前で開山諷経をしましたことは、生涯の思い出となることでしょう。フランスは特に政教分離の厳しい国ときき、許可になるかどうかと思つたのですが、シャザール館長に、「禅宗行事には開山諷経は一体のものです。」と申し上げたところ、「どうぞなさって下さい。」との許可をいただいて、さすが佛教に理解がおりになると感じ入ったのでした。十月十五日から十二月十四日迄の二ヶ月間、その間に、総長さんと養源院さんと坐禅会を二度行ない、お茶、お花、お香と盛りだくさんの行事をすべて終了して目出度く打ち上げたのであります。この展観によって相國寺、金閣、銀閣のイメージが海外に広が

り、感謝することしきりということでもあります。

今年二月には、中国雲南省の大理<sup>だいり</sup>、崇聖寺<sup>すうせうじ</sup>に参詣するはこびとなりました。この崇聖寺には日本からはるばる留学僧が来て禅を学んだのですが、その努力むなしく彼の地で遷化された留学僧の塔が二基、地元の人たちがしっかりと護持されていて、永らく日本から誰も墓参には行つてなかつたのですが、昨年立派にお寺が復興した機会に日本から巡拝団がはじめて拜塔したことがご縁で、先方から数名の訪日団が相國寺に來られ、親善を深めたのであります。

また新老師<sup>しんこうしつ</sup>韜光室<sup>たうかうしつ</sup>が若い和尚達を引きつれて河北省の柏林寺で大接心を行じることとなり、法幸至極のことでもあります。どうか皆様方の無事の一年でありますよう祈念して擱筆します。



本派寺院ご住職並びに寺庭婦人各位、及び相国会々員の皆様、新年明けましてお目出度うございます。

平成二十一年の新春を無事お迎えに出来ましたことをお慶び申し上げます。昨年の宗議会で三度び宗務総長にご推挙頂き、管長猥下始め一山ご老宿並びに内局員各位のご協力を頂き無事新年を迎える事が出来ましたのも皆様方のご指導ご鞭撻の賜物と感謝申し上げます。

さて昨年は本派唯一の専門道場の師家<sup>しけ</sup>(指導者)を長年に亘りお務め頂きました田中芳州老師を失った事は誠に残念でありましたが、幸いにして芳州老師の嗣<sup>し</sup>法<sup>ほふ</sup>のお弟子であられる小林玄徳老師(室号は韜光室<sup>たうかうしつ</sup>)を新しい師家としてお迎えし、昨年十月八日専門道場のあります塔頭大通院<sup>しえん</sup>で入院式<sup>しえん</sup>が行われました。宗派にとりましては人材育成が何よりの急務であります。どうか色身<sup>しきん</sup>法身<sup>ほふしん</sup>堅固<sup>けんこ</sup>に法



燈の益々盛んならん事を期待致します。

管長猊下のご親教も昨年で六回目を迎えましたが、一昨年に引続き第四教区福井県の若狭高浜町西地区で九月二十八日より三十日迄の三日間に亘り十一ヶ寺を訪問致しました。

くわしくは教学部よりの報告に譲りますが、兼務寺院の多い中で教区のご住職各位並びに寺庭婦人の連携と檀家総代各位のご甚力は目を見張るものがありました。

昔から信仰心の厚い土地柄であり、寺は自分で守るんだという信念で行動をされておりますが、住職方の努力、とりわけ第四教区宗務支所長であられる五十嵐祖傳師の平素からのご甚力の賜物であろうと思われました。本年は、私事乍ら生れ故郷の和田地区をも含めて高浜町中部を訪問する事を楽しみにしております。

さて、昨夏の円明誌でもご紹介致しましたが、京都市とフランスのパリ市が友情盟約締結五十周年になるのを記念して、『相国寺・金閣・銀閣名宝展』が、秋深まるプチパレ美術館で開催されました。期間は二十年十月十六日より十二月十四日迄の二ヶ月間で、十五日はオープニングセレモニーが行われ、日本から参加した訪問団、とりわけ和服姿の女性達に参列したパリジャンの注目を集めました。

会期中、銀閣寺に伝わる無双真古流の花方、佐野玉緒さんによる生け花の指導や、武者小路千家宗屋若宗匠による茶道指導、志野流香道の体験、日本から畳と坐蒲団を運んで銀閣寺の平塚執事長と、私とで坐禅指導も行われました。

シャザール館長の言葉を代弁すると、「禅とは人間である。人間は精神性を求める。展覧会を通し、禅という精神文化の深さを知ってもらいたい」と力説されており、「金融危機が世界を覆う今、誰もが深い精神性を求めていると思う」とも話しておられました。

この展覧会がヨーロッパ各国より注目を集めて無事終了致しましたが、早速台湾の故宮博物院其他からも引き合いが入っている模様ですので、愈々「相国寺の名を世界に知らしめる飛躍の年」になる事を期待するものがあります。

最後に、一般の方々が宗教に求めているのはケア（救い、癒し）を求めているということではないのでしょうか。自分自身の不安や苦しみ、痛み等を聞いてもらえる場所としての寺院や僧侶のあり方、そのような布教教化を求めているのではないかと思います。

宗教というものは社会の人々の、情緒的な思い、人々の不安感や危機感という情緒性をきちんと引き受けない限り、若い人達は増々そっぽを向いてしまいます。宗教的関心は先祖供養よりも、自らの生き方、心の在りようといった安らぎ、癒しの方向へ移っているように感じます。

僧侶として仏教の死の概念をいくら語ってもかまわないと思いますが、僧侶の内なるものから出てくる血肉化された自分の言葉で伝えないと人々の耳には届かないと思います。

寒さ厳しき折、皆様のご健勝をお祈り申し上げます。



有馬頼底管長猥下をはじめ、本派寺院御住職並びに相国会会員、檀信徒のみなさま、新年を迎え、ご健勝のことと拝察いたします。本年もまた、よろしくお願い申し上げます。

私、会長を拝命し三年目を迎えます。

平成二十年度は、実にいたましくも悲しむべき事態に遭遇いたしました。

僧堂、拈華室田中芳州老大師が五月八日遷化されました。享年五十九歳。雲水諸氏を指導することにすべてをかけ、自らを厳しく律し、誠実にひたすら求道の生活に徹せられました。「百歳までも自由に生きるよ」とのおことはが耳に残っています。

五月十二日 大龍窟管長導師のもと、津送しんぎが行われました。棺は担架の上に安置され、弟子雲水が山門まで肅々とお送りしました。

六月二十四日 納骨。墓前で法要が厳修されました。改めてご冥福をお祈りいたします。

九月一日 前堂転位式が開山堂で厳修され、新しく、小林玄徳老師が「法」を継承されました。重責を擔われました。立派にお勤めなされることを確信いたします。ご健勝とご精進をひたすら祈念いたします。

五月十八日 大象窟大津樞堂老大師の三十三回忌法要が厳修されました。私事ですが、私は、僧堂(延寿堂)で、養父(片岡仁志)の書生として、在俗のまま八年間(途中二年間結核で入院加療)、貴重な体験を積ませていただきました。生命がけでの求道、精進を専らとする雲水諸氏の中の生活は、すべて新鮮で、充実した、一方では厳肅な緊張の連続でした。大津樞堂老大師の大きなおはからいと深いお慈悲のお心がなければ、今日の自分はありません。今、静かにそれを思い、改めて深く感謝申し上げます。に、ご冥福をお祈りいたす次第です。

十一月二十一日 開山夢窓国師毎歳忌法要が厳修されました。祖師の教えの神髄を代々にわたって固く守り、充実、発展させていくことの尊さ、大切さを痛感いたします。

十月十五日から十二月十四日まで、パリのプチ・パレ美術館で「相国寺・金閣・銀閣名宝展」が開催され、盛況裡に終了された由。報道によりますと、フランスの「禅」ブーム

の中、国宝、重要文化財を直接目にして、驚きとともに「日本文化」を詳しく知るきっかけとなったようです。これを機にますます日仏の交流が深まることでしょう。管長陛下をはじめ総長、関係各位のご努力、ご苦勞のほどを思うとき、感謝とともに、ご慰勞申し上げます。

「経済が成長すると人間が壊れる」という法則があるとか。その法則通り、最近、目を覆いたくなるモラルの欠如、人間性の欠損の状態が、特に著しくなってきたように思います。この度の世界経済の破綻が、経済構造の激変だけでなく、どのような社会構造の変化をもたらすのか、全く見当もつきません。人間の生命の尊厳を守ることが忘れ、己の欲望のために平気で他人を傷つけ殺傷する、恐るべき魂の彷徨が続いています。子供が親を平気で殺します。許されないことです。両親との「縁」が己の存在を成り立たせ、さらに、先祖代々のお守りがあつて、今の「私」があることを自覚させねばなりません。「生かされて生きる」自分に気づかせねばなりません。「思いやる心」、「感謝する心」をよみがえらせねばなりません。私たちが、抱える課題、問題は山積しています。前途不透明な本年、「法縁」を大切にし、互いに手をとりあつて、これらの難問を解決していかねばと思っております。心豊かな、平和な社会の実現にむかつて、みなさまと共に努める覚悟でおります。ご支援、ご協力の程、よろしくお願い申し上げます。

ご挨拶とさせていただきます。

## 御親教日単

有馬頼底管長、江上泰山宗務総長、佐分宗順教学部長、矢野謙堂教学部員(待衣・記録)

9月28日(日)

午前7時30分 本山出発(専用車)

10時 円福寺到着 門前多数の出迎え、到着茶礼

10時30分 殿聲五聲支度同連声出頭、有馬管長、江

上宗務総長、佐分教学部長、五十嵐祖傳

宗務支所長、田中耕宗住職が出頭、尚全

行程管長引請を龍虎寺田村周山住職、司

会進行を向陽寺鈴木元拙住職、維那・玉

鱗その他を同教区若手住職等が務める。

一、心経、消災呪、本尊回向

二、大悲呪、開山回向

三、甘露門、檀信徒先亡回向

円福寺へ御親教記念品贈呈(管長墨蹟書き

下ろし)

管長法話、宗務総長挨拶、教学部長挨拶

檀信徒代表謝辞 総代 伊藤 彰氏

記念撮影

11時20分 御親教終了

11時45分 円福寺出発

正午 「松月花 松風」で昼食

午後1時15分 先駆(教学部長、同部員、支所長)「松月花

松風」を出発常津寺に向かう

1時25分 管長常津寺到着、門前多数の出迎え、到

着茶礼

1時35分 栢五声支度同連声出頭、五十嵐支所長、

武田典英兼務住職出頭

一、心経、消災呪、本尊回向・開山回向

二、甘露門、檀信徒先亡回向

(※ 以下三十日長養寺まで同式次第)

常津寺へ記念品贈呈

管長法話、宗務総長挨拶、教学部長挨拶

檀信徒代表謝辞 総代 野瀬好正氏

2時35分 御親教終了、薬師堂参拝後記念撮影

- 2時50分 先駆洞昌寺へ向け常津寺を出発  
 3時20分 管長洞昌寺到着、門前多数の出迎え、到着茶礼  
 3時30分 殿聲五聲支度同連声出頭、五十嵐支所長、  
 穎川孝生兼務住職出頭  
 洞昌寺へ記念品贈呈  
 管長法話、宗務総長挨拶、教学部長挨拶  
 檀信徒代表謝辞 総代 内谷久男氏  
 記念撮影  
 4時45分 御親教終了  
 5時 全員宿泊先の「松月花松風」に向け出発  
 5時20分 「松月花松風」に到着  
 6時30分 本山一行四人のみで薬石

9月29日(月)

- 午前7時50分 先駆桃源寺へ向け出発、台風の影響で小雨  
 8時20分 管長桃源寺到着、雨中にもかかわらず門  
 前多数の出迎え、到着茶礼  
 8時30分 殿聲五聲支度同連声出頭、五十嵐支所長、  
 武田典英兼務住職出頭  
 桃源寺へ記念品贈呈

- 管長法話、宗務総長挨拶、教学部長挨拶  
 檀信徒代表謝辞 総代 野口久之氏  
 記念撮影  
 2時35分 御親教終了  
 2時45分 先駆海見寺へ向け寿奎寺を出発  
 3時15分 管長海見寺に到着、参道多数出迎え、到着茶礼  
 3時30分 殿聲五聲支度同連声出頭、五十嵐支所長、  
 田中耕宗兼務住職出頭  
 海見寺へ記念品贈呈  
 管長法話、宗務総長挨拶、教学部長挨拶  
 檀信徒代表謝辞 総代 山本誠氏  
 記念撮影  
 4時30分 御親教終了  
 4時40分 全員海見寺を出発「松月花松風」へ向かう  
 4時55分 「松月花松風」へ到着  
 6時30分 薬石懇親会本山四名、四教区尊宿十一名、  
 四教区相国会正副会長二名が出席

- 管長法話、宗務総長挨拶、教学部長挨拶  
 檀信徒代表謝辞 総代 村田秀夫氏  
 記念撮影  
 9時30分 御親教終了  
 9時45分 先駆西林寺へ向け桃源寺を出発  
 10時5分 管長西林寺到着、門前多数の出迎え、到着茶礼  
 10時30分 殿聲五聲支度同連声出頭、五十嵐支所長、  
 穎川孝生兼務住職、  
 一教区慈照院久山隆昭住職出頭  
 西林寺へ記念品贈呈  
 管長法話、宗務総長挨拶、教学部長挨拶  
 檀信徒代表謝辞 総代 森嶋良宣氏  
 記念撮影  
 11時30分 御親教終了  
 11時40分 全員西林寺を出発「雄海」へ向かう  
 正午 「雄海」へ到着斎座

- 午後1時 先駆壽奎寺へ向け出発  
 1時15分 管長壽奎寺に到着、参道多数出迎え、到着茶礼  
 1時30分 殿聲五聲支度同連声出頭、五十嵐支所長、  
 田中耕宗兼務住職出頭  
 壽奎寺へ記念品贈呈

9月30日(火)

- 午前8時30分 先駆壽福寺へ向け出発  
 8時50分 管長壽福寺到着、門前多数の出迎え、到着茶礼  
 9時 殿聲五聲支度同連声出頭、五十嵐支所長、  
 本田真人兼務住職出頭  
 壽福寺へ記念品贈呈  
 管長法話、宗務総長挨拶、教学部長挨拶  
 檀信徒代表謝辞 総代 沢田育雄氏  
 記念撮影  
 9時55分 御親教終了  
 10時 先駆養江寺へ向け壽福寺を出発  
 10時5分 管長養江寺到着、門前多数の出迎え、到着茶礼  
 10時20分 殿聲五聲支度同連声出頭、五十嵐支所長、  
 田中耕宗兼務住職出頭  
 養江寺へ記念品贈呈  
 管長法話、宗務総長挨拶、教学部長挨拶  
 檀信徒代表謝辞 総代 常藤博美氏  
 記念撮影  
 11時35分 御親教終了  
 11時50分 全員「土三寒六」へ向け出発斎座(饅飴)

午後1時

長養寺へ向かう前に全員で、高浜町若宮にある釋宗演禪師生誕の碑を拝塔

1時15分 全員養江寺に到着、到着茶礼。その後隣接の長養寺へ移動

1時30分 殿聲五聲支度同連声出頭、五十嵐支所長、武田典英兼務住職出頭

長養寺へ記念品贈呈

管長法話、宗務総長挨拶、教学部長挨拶

檀信徒代表謝辞 総代 池田隆太郎氏

記念撮影

2時40分 御親教終了、先駆は隣接の長福寺へ向かう

2時50分 管長長福寺到着、到着茶礼

3時5分 殿聲五聲支度法鼓出頭、五十嵐支所長、

武田典英住職出頭

一、心経、消災呪、本尊回向

二、大悲呪、開山回向

三、甘露門、檀信徒先亡回向

長福寺へ御親教記念品贈呈

管長猊下法話、宗務総長挨拶、教学部長挨拶

檀信徒代表謝辞 総代 澤田拓郎氏

記念撮影

4時30分 御親教終了

4時50分 本山へ向け長福寺を出発

6時45分 無事本山到着

### 平成二十年度 在錫者名簿(雪安居)

愛知妙	福昌寺徒	羽澄一乘	兵庫妙	靈雲寺徒	林明慶
京都相	豊光寺徒	佐分承文	栃木(斐)	願成寺徒	長尾徳宏
鹿児島相	良福寺徒	近藤永進	香川(東)	正楽寺徒	上杉正航
北海道相	明覚寺徒	山崎浩宣	京都相	光源院徒	荒木文元
福岡(東)	莊嚴寺徒	山崎承宗	大分(妙)	正定寺徒	小原南陽
京都(南)	光雲寺徒	中川秀峰			

## 御親教寺院紹介

### 円福寺

〒九一九・二三八六 福井県大飯郡高浜町関屋五七の八  
電話 ○七七〇・七二・三七四〇(FAXとも)

開創 明治二十年(一八八七)九月

開山 獨園禪師

開基 一瀬六郎左衛門

本尊 釋迦牟尼佛坐像(明治時代)

伽藍構成 庫裡 本堂 表門

寺域坪数 二六〇坪

隣接(別荘) 畑一〇〇坪 山林一五〇〇坪

改修 本堂屋根葺替(昭和三十九年・一九六四)

舊代表役員 田中耕宗(第七世)

副住 田中太真

年間行事 大般若会(一月二十日)  
涅槃会(三月)

施餓鬼会(八月十五日)

達磨忌(十月三日)

布教活動 毎月詠歌講

布教師の巡教(三月)

地域活動 司法保護司三十年

#### ●由来・沿革

天正二年(一五七四)、現在地に臨濟宗建仁寺派石雲寺として創立。明治十九年(一八八六)一月十八日、建仁寺派の大成寺との紛争が発端となり、臨濟宗総管長荻野獨園禪師の調停により石雲寺は廃寺となり、本尊の觀音菩薩を大成寺に返還した。

元禄元年(一六八八)、高浜町菌部に創立されていた円福寺の名称を関屋の地に移し、明治二十年(一八八七)九月二日、荻野獨園禪師を開山として臨濟宗相国寺派指月山円福寺として現在に至る。

## 常津寺

千九一九・二二二一 福井県大飯郡高浜町中津海一四の一三

開創 文禄年間(一五九二)～(一五九五)

開基 惠嶽智公座元

本尊 聖観世音菩薩(文禄年間)

脇侍・その他 火除薬師如来(文禄年間)

寺宝 薬師如来

伽藍構成 庫裡

寺域坪数 一二〇坪

改修 大改修を施した(昭和六十年・一九八五)

儀職代表役員 武田典英(兼務)

年間行事 仏教会花祭り(五月三日)

山門施鐵鬼法要(八月十五日)

地域活動 毎月十五日に常津寺に集まり檀中の方々

にお念仏を唱えていただく

布教活動 棚経(八月十二日)

### ●由来・沿革

常津寺の草創に関しては、文禄年間(一五九二)～(一五九五)と伝えるが詳細についてはわからない。

昭和六十年(一九八五)三月、旧堂宇を改めて新しく本堂(一部庫裡)を建立した。

境内に医王殿と称する仏堂があつて、本尊薬師如

來を安置して、附近の人々から「火除の薬師」として信仰を集めている。平成十四年(二〇〇二)七月に薬師堂を改築した。

縁起によれば「昔、楨尾山一乗寺の勧請仏であつたが、靈元天皇の頃、寛文二年(一六六二)六月八日当寺第二世杜翁和尚が中津海谷間の水辺で発見して、此処にお堂を建て安置した。

ある夜、一人の旅人が、折からの風雲を避けて此の堂に籠り、寒さ凌ぎに、次々と堂壁を破つて暖をとつていたが、ついに燃やすものがなくなつてこの尊像を火中に投げ込んだ。

尊像はたちまち火中に一大光明を放つた。これを見た旅人は驚き、おそれて逃げ去つた」と伝えている。現在は兼務寺で、世代についても明治初年(一八六八)以来、老僧の隠居寺として正住を欠いていたので不明である。

当寺の門は前看坊沢田徳州和尚が、縁りの寺、神戸の福聚寺から申し受けて、昭和十一年(一九三六)十一月二十六日に移築したものである。

## 洞昌寺

千九一九・二三六一 福井県大飯郡高浜町音海六十三の二の一

開創 永仁年間(一二九三)～(二九八)

開山 安寂忍公和尚

本尊 聖観世音菩薩

脇侍・その他 達磨大師 泰澄神融大師

伽藍構成 本堂 庫裡

寺域坪数 五三一・〇〇㎡

竊権別荘数 借地二六八・七八㎡

改修 本堂新築(平成三年・一九九二)

庫裡新築(平成四年・一九九二)

住職代表役員 額川孝生(第十世・兼務)

年間行事 念佛始め 涅槃会 施餓鬼会 達磨忌

念佛納め 般若会

地域活動 年末托鉢

### ●由来・沿革

天保五年二月罹災。寺史、沿革については、古記録等がなく不詳。

本堂・庫裡の新築に伴い、平成八年(一九九六)十二月十二日付申請により、音海七十二～三十二から音海六十三～二二一に寺務所移転。

## 桃源寺

千九一九・二三六五 福井県大飯郡高浜町神野二八の五の二

開創 天正元年(一五七三)

開山 安寂宗忍和尚

本尊 延命地藏菩薩

脇侍・その他 達磨大師(昭和五十五年・一九八〇新調)

聖観音

伽藍構成 本堂 庫裡 東司

寺域坪数 二二三坪

竊権別荘数 畑・山林八〇・二八㎡

改修 昭和五年(一九三〇)再建

住職代表役員 武田典英(兼務)

年間行事 山門施餓鬼(八月十五日)

達磨忌(十一月五日)など

地域活動 四分市祭(六月三十日)

### ●由来・沿革

桃源寺は火災や永住の僧が少ないことから、由緒・沿革の資料となる記録に乏しい。明治四十二年(一九〇九)四月本山提出宝物什器明細帳(西林寺蔵)に、大永年中(一五二一〜一五二八)類焼に羅り記録不詳とある。その後、天正元年(一五七三)安寂和尚(一五七五・天正三年三月二十七日示寂・石塔有り)の再興により相続す。高浜町資料郡誌には、開山安寂忍公和尚の示寂は「天正三年中」とある。その他の由緒については、いつのころか火災にあつて、それまでの御本尊は「小野篁」の作であつたとのみ伝えていくくらいで詳しくはわからない。

近年の記録では、明治二十年(一八八七)杉本亀太郎が本堂を再建したとあるが、大正の中ごろ火災によつて焼失し、現在の本堂はその後再建されたものである。

大正十五年(一九二六)一月十一日午後九時頃失火、過去帳をも灰燼に帰す。当時の住職檀信徒法類大方諸氏の篤志の寄附を仰ぎ、昭和五年(一九三〇)十月落成上棟式。入母屋瓦葺木造本堂と庫裡を廊

下でつなぎ現在に至る。

御本尊はその時の住職照堂和尚の師匠の寺(九州)より、誠に先の尊像に生き写しの古き延命地藏尊をまねいて檀信徒歓迎・歓呼し奉安する。

開山安寂和尚は音海区の洞昌寺、下区の養源庵両寺の開山であり、当山の覚室神公座元(貞享三年・一六八六、九月寂)が洞昌寺創立の人であると新過去帳(照堂代)に記されている。

平成十五年(二〇〇三)八月初め盆の総仕事(墓所や寺内外大掃除)の日に檀家役員本堂に入り、御本尊一体盗難を発見。檀家協議の結果、今後何年間かは望みを捨てずお帰りを待つことにし、その間は宮殿の隅にあつた小さな地藏尊を中央に祀っている。

## 西林寺

〒九一九・二三五一 福井県大飯郡高浜町山中九八の二

開創 文和二年(一三三三)

開山 一傳周清和尚

本尊 聖観世音菩薩

脇侍・その他 達磨大師 庚神

伽藍構成 本堂庫裡 土蔵 八幡社 不動堂

寺域坪数 一四〇四・二四㎡

葬儀別荘数 飛地二堂八一二㎡

改修 山林・畑・墓・宅地・その他四五五八・三㎡

代表役員 昭和四十九年(一九七四)

年間行事 穎川孝生(兼務)

大般若会(一月十八日)

山門施餓鬼(八月十五日)

戦病没者追悼会婦人会(八月二十四日)

達磨忌(十一月五日)など

### ●由来・沿革

西林寺は山中字堂脇、即ち道場に在り、元來庵と称したが、明治十四年(一八八二)寺号を下附され、江戸く大正期にかけ同派三利が併合している。

草創時の文献もその詳細はわからない。『郷土誌内浦』によれば、文和二年(一三三三)開山一傳周清(永

和元年・一三七五、九月二十八日示寂)とあるのでこれを開創年とする。

文政六年(一八二三)、高浜園松寺の月叟和尚は、隣りの福田庵(開山習芝遵西堂、文祿元年・一五九二、五月十八日示寂、檀徒十有二・三戸)と西隣の当山十有六・七戸の檀徒同じにして眼と鼻の間に在るをもつて両寺併合の議を聞く。

当代月船惠澄代、文政七年(一八二四)新築再建上棟式、同九年(一八二六)完成。

下区月光山養源庵(天永年間創建、開山安寂宗忍、天正三年・一五七五、三月二十七日示寂)は当山に大正二年(一九一三)合併。

白井区の山麓にあり、山号は蟠龍山あるいは慈光山と称した、洞泉庵(開山花堂和尚天正四年・一五七六、創立)は、大正五年(一九一六)縁あつて高知県土佐郡一宮村へ移転し、檀徒十七軒と旧址等を当山に併合。特に境内に一奔泉有り。夏尚涸れず落内の民家を潤すに足ると謂う。この洞泉の名水は現今なおも満々。

明治十年(一八七七)八代玄祐和尚入寺、同二十三年(一八九〇)開山一傳禪師五百遠年諱並に遣教経大授会に初代本山管長親下を招聘し、檀信徒大いに満

足する。御真筆の額面に、「不用一拳石 積五尺山 有時雲霧起 法雨潤人間」

時代は流れ、堂宇老朽甚だしく昭和四十九年（一九七四）より協議を続け、丁度山中公民館（二階建）を移動改築する。寺院様式にあらず。

境内佛堂に不動堂あり。この不動明王木像は行基菩薩の作にして天平年間（七二九～七四九）道場寺に安置されていたが、同寺の頽廢と共に現今の堂に移したと伝う。その不動尊も昭和年間新しく奉安、飛地境内地白井区中央に薬師堂あり、薬師如来を安置する。

## 壽奎寺

〒九一九・二三六三 福井県大飯郡高浜町小黒飯二九の二

開創 永和元年（一三七五）

開山 一傳妙清和尚

開基 大草兵庫守忠由公

本尊 十大勢至菩薩（江戸時代）

伽藍構成 本堂庫裡同棟

寺域坪数 一九四坪

隣地境界 飛地境内六三坪 薬師堂

改修 弘化二年（一八四五）九月

住職代表役員 田中耕宗（兼務）

年間行事 観音講（一・三・九・十一月）

涅槃会花まつり（五月八日）

達磨忌（十一月四日）

老人講（一・三・八・九・十一月）

年三回お日待講（一・五・十一月）

盆施餓鬼

### ●由来・沿革

大草兵庫守忠由公は、小黒飯山の城主であり、永和元年（一三七五）三月末に急死したため、城の西山すそふところに一寺を建立して、忠由公の霊を祀った。それが壽奎寺である。

法名を壽奎寺殿昌応道永大居士と申し、壽奎寺の開山でもあるので、一傳妙清和尚と申す。法類の海見寺も西林寺も、一傳妙清和尚が開山である。昭和四十七年（一九七二）三月には、支所長であった西安寺和尚

を導師に、法類・檀家のみで開山六百年忌をつとめた。

岬回りの道「脇坂」と呼ばれる、切り立った山場が続き江戸後期頃までは歩き越えるのにかなり危険を伴った難所がある。高浜へ出るにはこの脇坂を通らなければならず、崖の上から人が落ちたり、海が荒れて波にさらわれたりした事もあった様だ。村人が難儀をしている事に心を痛めた当山中興の祖として有名な節巖和尚は、道の開削を志し、文政六年（一八二三）から二十年にわたり、自らの生涯をかけてこの難行に取り組まれた。その骨身を削るが如き辛苦のさまをみて、高浜の商人堀口屋清右衛門が支援の手を差し伸べ、天保十四年（一八四三）遂に完成。安全に往来が出来るようになった。同年七月、地元の日

引石で造られた高さ一米ほどの碑の正面に、「大乘妙典」の文字台座に「願主壽奎菴節巖座元」「施主堀口屋清右衛門」、側面には天保十四年の建立であることと碑の由来が細かな字で刻まれている。百六十年の歲月の間に風化して、判読の困難な文字が多いが、この碑を拝見する度に節巖和尚の人柄が偲ばれる。現在は、国道二十七号線から高浜原子炉発電所方面に向う途中、二本の短いトンネルが昭和五十七年（一九八二）に完成し、自家用車や観光バスや発電所通いの車が走っている。

当寺の沿革をまとめるにあたって、壽奎寺には昔の書類は何も残っておらず『若狭のふれあい』二〇〇三年第百三十六号を参考にした。

## 海見寺

〒九一九・二三六四 福井県大飯郡高浜町難波江二八の七

開山 一傳妙清和尚

本尊 釋迦牟尼佛

寺宝 涅槃会掛軸

伽藍構成 本堂庫裡同棟

寺域坪数 八五坪

住職代表役員 田中耕宗（兼務）

年間行事 大般若（一月十九日）

涅槃会（二月十五日）

盆会施餓鬼（八月十六日）

老人講（一・三・八・九・十二月）



●由来・沿革

開山一傳妙清和尚は、元和元年(一六一五)九月二十八日寂と過去帳に記してあるが、過去帳三冊ほど

預っているだけで何の書物も遺っておらず、詳細は不明である。

### 壽福寺

千九一九・二二二七 福井県大飯郡高浜町若宮三の二二

開創 天正年間(一五七三〜九二)

開山 章嵌玉首座

本尊 地藏菩薩(天正年間)

脇侍その他 章嵌天尊仏・開山章嵌和尚位牌(天正年間)

寺宝 本尊地藏菩薩

伽藍構成 本堂兼庫裡(二七坪・平屋)

井戸屋形(一・五坪) 物置(二・五坪)

寺域坪数 三〇坪

境内別荘墓 墓地(三〇坪)

改修 平成十一年(一九九九)十一月

住職(代表役員) 本田真人(兼務)

年間行事 涅槃(三月十五日)

施餓鬼(八月二十八日)

達磨講(十一月二十日)

布教活動 毎月「お講さん」と称して檀徒のみにて

●由来・沿革

壽福寺は天正年間(一五七三〜九二)の創建にして、章嵌玉首座を以て開山とす。今よりおよそ二三十年前に再建し、今日に至る。章嵌玉首座は高浜城主逸見駿河守家老魚住氏の出である。豊春山元興寺の開山にして、同寺を退山し当寺に隠棲、草庵を結ぶ。天正六年(一五七八)五月二十一日、示寂。

その後の消息は詳しい記録がないが、近年まで村町の人々より嘗々と「壽福庵さん」と呼ばれていた。

近年、本堂、庫裡等の老朽化が目立ち、檀家により十数年間積み立てを行い、これをもって、平成十一年(一九九九)に改修し、余剰金で六体地藏を設置し今に至る。

### 養江寺

千九一九・二二二七 福井県大飯郡高浜町若宮三の一三

開創 文禄年間(一五九二〜九六)

開山 繁寂茂公

開基 吉田新右衛門

本尊 聖観世音菩薩

脇侍その他 臨濟禪師・達磨大師(いずれも近年作)

寺宝 今上皇帝寿牌 涅槃画像

伽藍構成 本堂兼庫裡一部二階建瓦葺

寺域坪数 一一六坪

境内別荘墓 宅地六四坪

改修 全面改築(平成五年・一九九三)

住職(代表役員) 田中耕宗(第十三世・兼務)

年間行事 涅槃会 達磨忌 施餓鬼会

●由来・沿革

平朝臣吉田左衛門尉光茂裔、畑村吉田新右衛門が文禄年間(一五九二〜一五九六)に、繁寂茂公和尚を請じて開山として建立したものと伝える。其の後火災に遭い、天保十年(一八三九)九月、恵寛和尚によつて再建されたが、近年全般的に老朽化が甚だしく建造物としての限界に達し、平成五年(一九九三)、佐藤心契法尼により全面改築がなされ今日に至っている。

### 長養寺

千九一九・二二二七 福井県大飯郡高浜町若宮三の一六

開創 天正元年(一五七三)

開基 基俊源公首座

本尊 聖観世音菩薩(文禄年間)

脇侍その他 達磨大師(文禄年間)

寺宝 涅槃図

伽藍構成 庫裡

寺域坪数 一一〇坪

改修 大改修(昭和五十一年・一九七六)

儀(代表役員 武田典英(兼務))  
年間行事 涅槃会(三月十五日)

仏教会花祭り(五月三日)

山門施餓鬼法要(八月十五日)

達磨忌(十一月五日)

布教活動 棚経(八月十三日・十四日)

地域活動 毎月十八日に長養寺に集まり檀中の方々  
にお念仏を唱えていただく

●由来・沿革

創建当時は茅葺きの堂宇であったが、第九世方室

丈和尚、寛政年間(一七八九〜一八〇〇)に瓦葺きに  
再建し、昭和五十一年(一九七六)大改修を施した。

明治、大正年間の傑僧、釈宗演禪師は、当寺檀家  
一瀬五衛門家の出である。

当寺檀越「しまや」一瀬仲右衛門家より明治の傑  
僧、越溪和尚が出ています。

境内庭前に、京都大本山妙心寺住持賜紫越溪和尚  
の墓碑がある。

創建の時は長艱禅菴と名付けられ、現在は長養寺  
と呼ばれている。

## 長福寺

〒九一九・二二二七 福井県大飯郡高浜町若宮三の一八の一  
電話 〇七七〇・七二・一九〇七(FAXとも)

開創 永享年間(一四二九〜一四四〇)

開山 性天景繕

開基 足利義教

本尊 釋迦牟尼佛(永享年間・武田信榮)

脇侍・その他 觀世音菩薩

達磨大師(永享年間・武田信榮)

寺宝 涅槃圖

伽藍構成 庫裡 書院

寺域坪数 四〇五坪

改修 本堂玄關改築(昭和四十九年・一九七四)

本堂屋根葺替(平成十一年・一九九九)

儀(代表役員 武田典英(第二十二世))

年間行事 涅槃会(三月十五日)

仏教会花祭り(五月三日)

山門施餓鬼法要(八月十五日)

達磨忌(十一月五日)

布教活動 棚経(八月十三日・十四日)

地域活動 毎月十八日に長福寺に集まり、檀中の  
方々にお念仏を唱えていただく

●由来・沿革

長福寺は清和天皇の後胤新羅三郎義光の後裔治  
郎小輔武田信榮が、將軍義教の命を受けて大和の陣  
中において一色義貫を誅し、その功によって若狭の  
国守護職に任ぜられ、永享年間(一四二九〜一四四  
〇)当寺を開創した。

法名を「長福寺殿天遊光芸大居士」と号し、永享十  
二年(一四四〇)七月二十三日に逝去した。

なお開山性天景繕和尚は、大本山相国寺再住第四  
十七世である。

創建の当初は当町海岸城山字藪之内に在って、相  
応の堂宇伽藍を完備し、その結構を誇っていたが永  
享年間、逸見昌経が今の城山に築城の際、現在の地  
に移した。

その後、享保年間(一七一六〜三五)火災に遭い、  
諸堂宇尽く焼失して、古文書、什宝等烏有に帰して  
現在見るべき物はないが、武田氏年譜の写本を蔵し  
ている。

當寺第九世鐵山和尚、享保三年(一七一八)草屋葺  
本堂庫裡等再建。第十四世説堂和尚、安永四年(一七  
七五)瓦葺庫裡再築、現在の庫裡である。第十六世  
嫩桂和尚、表門再興。第十七世印宗和尚、明治十一  
年(一八七八)本堂再建、現在の本堂である。第十八  
世大興和尚、明治四十四年(一九一一)梵鐘鐘樓再興。  
其他歴代住持境内の整備諸堂宇の改修等に依り寺  
門を興隆。開創以来、五百年世餘開山以来嗣法相承、  
第二十世より開基武田家の姓を嗣ぎ現在に至る。  
東寺古文書の八穴山長福寺文安六年(一四四九)  
云々によれば、後年八穴山久昌寺と分離して長福寺  
を創立したとも言われる。

御親教  
感想文

## 有馬管長様ご親教に参加して

円福寺檀家 一瀬正輝

今年、本山相国寺の管長様ご一行がおいでになる予定であることをお聞きいたしておりました。管長様が円福寺に来られるのは、明治二十年の開山以来百二十一年ぶりであります。その後、九月二十八日(日)においてなられる日程が正式に決まり、檀家一同お迎えの準備を進めてまいりました。そして、いよいよ当日午前十時頃、山門に到着された管長様ご一行は、参道で多数の檀家がお迎えする中、親しく笑顔で会釈されながら本堂の方へ入っていかれました。茶礼のあと本尊回向、開山回向、檀信徒各家先祖回向が厳肅に執り行われ、引き続き管長様のご法話を頂きました。本堂に溢れるほどの多くの檀家一同、本当に有難く静かに拝聴いたしておりました。「お釈

迦様の教え」「世界の平和」等考えますとき、管長様のご法話をしっかりと心にきざみ、自分自身の考え方や行動を正しく持つことの大切さを痛感させられました。これからは、有難いご法話を念頭に入れて、私たち益々精進し仏の教えを守り、清く正しい道をしつかりと歩いていかなければならないと心に秘めた大変意義ある一日であったと思います。このような機会は、たびたびあるわけではございません。檀家一同にとりまして貴重な経験となりましたことを感謝申し上げます。最後になりましたが、管長様をはじめ宗務総長様、教学部長様他お世話をいただきました各寺院の和尚様方に心よりお礼申し上げます。

御親教  
感想文

## 常津寺御親教に思う

常津寺総代 荒木幸作

さわやかな秋晴れの九月二十八日、有馬管長様が、私も常津寺にお越しいただき、先祖回向をしていただきました。管長自らがこんな末寺まで、足を運んでいただくことは、当寺百二十年の長い歴史の中でも初めてのことと思います。管長猥下ののこやかな笑顔と心温まるご法話が今でも鮮明に私の脳裏に残っております。人として生きる源をいただいたような気持ちでございます。檀信徒として、み仏の教えをお守りする大切さを身にしみて考えさせていただきました。本当にありがとうございます。

さて、当日は檀家の皆さま五十名近くが管長猥下の到着をお待ちしていました。集まっていたいた方々、どの顔を見ても、初めての管長猥下御親教ということで興奮気味です。檀家の一人でもある野瀬高浜町長も門前で率先してお出迎えです。寺門から寺院まで赤の絨毯がしかれ、その左右に檀信徒が整列しました。一時過ぎ、管長猥下を乗せた車が寺門に停車し、にこやかな笑顔で管長様が降りられました。この日のためにと、檀家の一人が一生懸命、修復した傘がさされ、ゆつくりと本堂に入寺されました。両手を合わせ、迎える人に穏やかに語りかけのお姿を拝見し、なんてすばらしい管長様だろうと、拝察させていただきました。

下、江上宗務総長、佐分教学部長はじめ本山の皆様

の開始です。ご法話では観世音菩薩、禅の教えはまず行動することが大切である、第一に掃除、第二に信心、などわかりやすくお話しいただきました。また、禅の教えを日本国内だけでなく、フランスなど、海外でも広める活動を先頭になって取り組まれていることを伺い、感心させていただきました。国際化の中で、平和への活動に取り組まれているお姿に感服です。ご法話の最後に管長様が「このきれいな景観のお寺を後世までしっかりと守ってください」と話された時は、胸が熱くなりました。檀家一同で、今日の日のためにお寺の掃除、境内の草取りなど、心ひとつになつて取り組んできたことが、管長様のこの一言で報われたような気持ちになりました。ありがとうございます。また、いただきました記念品(かけ軸)は、当寺の宝として後世に伝えてまいります。当寺には本堂に隣接し、薬師様をまつた薬師堂がございます。相当古くからあり、十年前に檀家の方々で再建いたしました。回向のあと、この薬師様まで足を運んでいただきました。「しっかりと守りしてください」とのお言葉をいただき、感謝の気持ちでいっぱいです。

また江上総長、佐分教学部長様からもあたたかいご挨拶をいただきました。ありがとうございました。最後にになりましたが、有馬管長様のますますのご

隆盛を檀信徒一同心よりお祈り申しますとともに、この御親教で心洗われる一日をいただきましたこと

と、厚く御礼申し上げます。

合掌

御親教  
感想文

## 洞昌寺御親教

洞昌寺総代 廣川 勲

平成二十年九月二十八日午後三時三十分、相国寺より有馬管長猥下御一行の到着を洞昌寺信徒一同は合掌でお迎えしました。そしていよいよ信徒一同の期待と緊張の中、管長猥下のご法話が始まり、本堂は咳き一つない静寂に支配されたのでした。ご法話は大変平易なお言葉で説かれましたが、漢字が直ちに浮かばない仏教の特別の言葉もあり、後日記憶を基に辞書で確認した次第です。八苦の中の怨憎会苦、求不得苦、五陰盛苦などなどの字句でした。

管長猥下はこれらの言葉を一つ一つ丁寧に説明して下さいましたが、教室で黒板の漢字を目で確認しながら受けた学校の授業を思い出して若干残念に感じました。五陰の各々の文字を頭の中で整理している間に「色」の説明を聞き漏らし悔しい思いが残っております。色は若年のころからお寺や或いは親戚の法事で耳に親しい般若心経の色即是空、空即是色

の「色」です。私には大変難解な概念でしたが学生時代に合ったサルトルの『存在と無』の中に自分流に解釈していた色即是空、空即是色を発見して喜んだ記憶があります。戦場に赴く直前に師と仰ぐ疎石を訪ねた足利直義に対し師は、修業は場所を選ばないもの、たとえ戦場に於いても修業を忘れないよう説かれたとの感懐深いお話を拝聴した後に足利尊氏と弟の直義について少し調べましたところ二人は大層信心深く疎石に深く帰依していたそうです。尊氏が室町幕府を開くに際し直義は強力な協力者でありました。その二人が後に不和となり兄は弟を鎌倉に於いて毒殺したのです。歴史上親子、兄弟、血縁者が敵味方に別れての争いは枚挙にいとまがありませんが疎石の下で熱心に修業した二人の心を以ってしても克服できなかった不和の根深さは想像を超えたものだったでしょう。疎石の立場から、毒殺事件は

彼の没した翌年に起きたことがせめてもの救いであつたように想えてなりません。感想文があらぬ方向へ脱線しましたのでこれで終えますが、御親教の最後に管長猥下を囲んで信徒一同は記念写真に納まりました。そして全員で御一行様をお見送りました次第です。午後五時を少し過ぎておりました。洞昌寺の兼務和尚様大変ご苦労さまでした。

管長猥下の御親教は来年も高浜地区で継続されると承っておりますので再度ご法話を拝聴し私の中の虫喰い部分を完全に埋めたいと願っております。最後になりましたがこの度我々の末寺まで足を運び下さいました有馬管長猥下、江上宗務総長、佐分教学部長に心より感謝申し上げますと共に厚くお礼申し上げます。ありがとうございました。

御親教  
感想文

## 桃源寺御親教に思う

桃源寺総代 林本幸雄

九月二十九日、昨夜からの雨が残り今年一番と冷え込む中で、大本山相国寺派第四教区御親教の開教が行われました。第四教区支所長おおい地区、高浜地区の各寺の住職の方が来られた後に有馬管長猥下、江上宗務総長、佐分教学部長が御来寺され、到着時には檀信徒一同、山門で両班に分かれてお迎え致しました。二日目の朝一番の開教寺院とはいえ昨日の疲れ見せず笑顔で会釈されながら本堂に入られ、しばらくご休憩をされた後に法話が始まりました。一同で心経、本尊回向、開山回向が執り行われ、引き続き管長様の法話が始まりました。その中で、

今世界で問題になっている環境にも大変関心をもっており心をお痛められていることと、当寺にとつて大変不幸な出来事である御本尊様の盗難の件についても、どこかできっと御本尊様が我々一同を見守って下さっていると言ふ優しいお言葉をお聞きして、一日でも早く御本尊様が見つかり当寺に帰って下さることを願うばかりです。また江上宗務総長様のお話では、高浜町の出身であると言ふ事をお聞きして御苦労をされたと思いますが、地元出身の方がこのような地位におられるということは大変誇りであると思えました。来年度は地元で御親教にお出で

になることで大変楽しみにしているとのこと、元気なお姿を見せていただきたいです。佐分教学部長様のお話では、毎年少年少女の研修会、また相国寺参りなど私たちの大変身近なところで活躍されている方とお聞きして、改めて感謝を申し上げる次第です。最後に管長様ご一行と檀徒一同とで記念写真も撮ることが出来ました。檀徒にとって一生涯の中の良き思い出になったと思います。管長様ご一行の終

御親教  
感想文

## 西林寺御親教について

西林寺総代 児玉徳左衛門

平成二十年九月二十九日、西林寺に本山相国寺の有馬管長様が御親教に来られる日は、朝からあいにくの雨模様で一抹の心配をしていたのですが、午前十時過ぎにお着きになった頃には小雨になり、檀信徒一同が揃って、有馬管長様、江上宗務総長様、佐分教学部長様をお迎えする事が出来ました。終始笑顔で会釈され、お迎えしていた私達に相對して頂いた管長様のお姿を、一同がいつまでも忘れる事無く心に留め置く事と思います。

しばらく休憩、茶礼の後、本堂にて法要が始まり

始にこやかなご様子を拝見させていただき大変有意義な一日でした。今後、檀徒一同は益々精進し御仏を敬って、正しい道をしっかりと歩んでいかなければならないと思われました。最後になりましたが、この度の御親教に際し管長様はじめ本山の和尚様方、お話を頂いた教区の和尚様方に心より厚くお礼を申し上げます。

本尊回向や檀信徒各家先祖回向をして頂きました事に感謝すると共に、管長様はじめ和尚様方と一緒に檀信徒の皆が心経を唱えさせて頂きました事など、良い体験をさせて頂きました。

その後、管長様の法話を拝聴いたしました。お話の中で、お寺の御本尊様に向き合う檀信徒の姿勢を説いて頂いたのが心に残っております。

物静かに語りかけられる管長様のお話に皆の者が静粛に聞き入り、有意義な一時を過ごさせて頂きました。

管長様の法話の後、江上宗務総長様、佐分教学部長様より御挨拶を拝聴致しました。それぞれの立場

で私たちにお話をして頂き、皆が有り難くお聞きしました。最後に管長様御一行と檀信徒一同が記念写真を撮る事ができ、檀徒が生涯良き思い出の一日として心に刻むものと思います。

お帰りになる前に、庭先の故久山和尚様の石碑に気付かれ、縁側より静かに手を合わせて居られた管長様を拝見し、心よりお礼を申し上げますと思います。一連の次第の中、厳肅な儀式と、にこやかにお話をされる一時を私達に与えて頂きました事に感謝すると共に、今後檀信徒一同が協力し御本尊様を

お守りして西林寺の発展に尽くして行きたいと思えます。

この度、御親教に合わせて、西林寺とは御縁の深い慈照院久山隆昭和尙様がわざわざ遠路お越しになり同席して頂きました。檀信徒一同に代わり心より感謝しお礼を申し上げます。

最後になりましたが、管長様はじめ、宗務総長様、教学部長様ほかお世話頂きました教区の各寺院の和尚様方に心よりお礼を申し上げますと共に、寒さ厳しき日々を迎える季節柄、お身体には十分御自愛されますようお願い申し上げます。

御親教  
感想文

## 壽奎寺御親教を崇拜して

壽奎寺(寺世話) 山内三治

御親教については昨年七月頃に、来年度は第四教区の高浜地域西部より開教との情報を手し、この頃の事、不幸にも前任職の滝野様が急病即入院と云う敢えない苦境を強いられる破目となりました。それでも檀家一同悪況にもめげず一大事業の御親教を目標に荒れ果てた本堂内、外の清掃を毎週の様

総出によつて御尽力されました。

その後本年八月には御親教日程が確定し、第四教区善應寺五十嵐支部長様始め各寺院住職様方、そして当寺壽奎寺の兼務住職を依頼する事となった円福寺田中和尙様の行き届いたご指導の下、準備万端御親教に備えるに至りました。

そして愈々当日の平成二十年九月二十九日となり、囚らずも朝から小雨模様が続き駐車場から当寺本堂迄の道中を心配しましたが、教区の和尚様方のお計いでご面倒ではありましたが小型車に乗り替えて頂き、定刻より早目の午後一時十五分頃、壽奎寺山門前に到着され、大本山臨済宗相国寺派、管長猥下始め、江上宗務総長様、佐分教学部長様、矢野教学部員様、檀信徒総出により合掌にて出迎えの中、管長様は微笑んで会釈され、敷石を歩かれ乍ら有難うご苦労さんと言われ、私達は深い御慈悲に感銘し一瞬に緊張の解れを感じました。

管長様ご一行は直ちに住職の案内で表玄関より本堂に入られ、書院において到着茶礼を受けられました。

その間檀信徒は着座し、ご開教に臨みました。

御親教に際しましては儀式全般にわたり、マイクによる司会進行があり、特に私達にとりましては大変わかり易く有難いことでした。

そして間もなくご開教となり檀信徒合掌の中、管長猥下が入場されました。続いて江上宗務総長様、佐分教学部長様、矢野教学部員様と相次いで入場され、勿体なくも有馬管長猥下大導師の下で法要を頂くこととなり、心経に始まり本尊、開山、檀家各家先祖の回向と次々と諷経され、檀信徒にとって生涯

設置され同時に除幕し、檀家一同作業の手を止め、立派な寺額、壽奎禪寺の出現に感激し喜びに浸りました。

尚御法話では、この寺額の新調や、境内の清掃にも目配りされ、いろいろとお褒めのお言葉を頂き、檀信徒一同一層活力が湧き、田中兼務住職の下、総代始め一丸となって我が壽奎寺を守ってまいりたいと思います。管長様本当に有難うございました。心から厚く御礼申し上げます。

続いて江上宗務総長様より誠に御鄭重なる御挨拶を賜わり、町内出身者にもこの様な立派な人がおられることを知り、改めて誇りに思い感銘いたしました。

お話の中で、教区内の住職不足の実態を取り上げて頂きましたが、特に私共の内浦地域の五ヶ寺は全て兼務住職様方にお頼りせざるをえない深刻な状況でございます。

お蔭様で平成二十年度は第四教区支所長様のご配慮によりまして懸案の問題として、全体協議会において一定の基準規制によって無住寺への兼任が定められた事とお聞きしました。これで私共やっとなにか息継ぎが出来たとほっとして居ります。

しかし乍ら現状を将来にわたり引きずる事は大変不安に思います。どうか少しずつでも改善の方向に転換出来ます様に御指導御鞭撻の程伏してお願

忘れることの出来ない無上の喜びに浸りつつ唱和させて頂きました。誠に有難うございます。

続いて管長様より壽奎寺田中兼務住職に御親教記念品の贈呈が有りました。

そして有馬管長猥下のご法話が始まり柔らかく和やかな雰囲気をもって語りかけられ、檀信徒は一心に拝聴いたしました。話題では管長様ご自身の若き頃の修行時代を引き合いに出され、師匠からきしく教えられた事は、「不言実行」何事にも実践出来ないものは本ものとならないと悟られ、この教えは私達人生上、最も大切な定義と心得、深く心に刻みました。

又この度の御親教に併せて当寺では壽奎禪寺の寺額を新調し、表玄関に掲げる事が出来ました。そして有難くも只今管長猥下の御法話の中でもこの事をご披露頂き誠に恐縮いたしました。実は私共当寺には何んの寺号札も無く、野口総代はこれで御親教が迎えられるのかと悩み、この機会に何としても事情理由を以って、田中住職様から厚かましいご無礼を省みず有馬管長様に寺号の筆蹟をお願い申し上げます。次次第でございます。管長様におかれましては、日々御多忙の中で御慈悲を頂き、早期の内に私達の願望にお応え下さり、九月二十一日の吉日、檀家総出による清掃作業の中、寺額の取付け工事も始まり、

い申し上げます。本日は誠に有難うございました。心から厚く御礼申し上げます。

そして佐分教学部長様よりご挨拶を賜りました。お話は大変具体的で私共檀信徒にとりまして誠に興味深く拝聴いたしました。大本山では教養活動として、雲水の養成や、時には住職の研修等にも携わっておられるとの事、私達の本山はまんざら閉ざされたものでは無いと安堵致した次第でございます。やっぱり大本山はいろんな仕組みの構成において末寺檀信徒の苦難を御慈悲深くお守り下さっておる事と有難く感謝申し上げます。

本日の御親教儀式も感謝、感激の内に終了時刻がせまり、野口総代から檀信徒を代表して、管長猥下並びに大本山重役様方に真心の謝辞を述べられました。

最後に御親教記念撮影となり、壽奎寺表玄関の新調寺額を仰ぐ場所にて中央に管長猥下、宗務総長、教学部長、教区支所長、当寺兼務住職様方は前列に、後方に檀信徒一同がなりました。

本御親教に際し、終始献身的に御尽力下さいました第四教区支所長様始め、各寺院の御住持様方には大変ご苦労をお掛けしました。本当に有難うございました。

厚く御礼申し上げます。

合掌

平成二十年九月二十九日、御親教のため、大本山相国寺の管長様ご一行がおいでになることを、住職様よりお聞きした時には、身の引き締まる思いがいたしました。

当日は、雨の降るあいにくの天候でしたが、午後三時頃、檀信徒が合掌でお迎えするなかを、管長様は、笑顔で会釈をされながらご到着されました。

管長様の法話のなかで、本堂に掲げられている「海見」の書は、三代前の管長様が書かれたものであることを聞き、たいへん驚きました。また、本寺の住職であった、月心寺の村瀬明道尼さんと親交があることなどを親しくお話してくださり、管長様が身近に感じられる思いがいたしました。

そのうえ、本寺が綺麗に維持されているとお褒めのお言葉をいただき、お迎えの準備を進めて参りました檀信徒一同、たいへん有り難くうれしく思いました。

その後、なごやかな雰囲気のおかげで写真撮影が行われ、管長様ご一行は本寺を後にされました。

この日は、檀信徒にとつて一生涯忘れ得ない日となったと思うとともに、今後もお一層精進していくことをあらためて感じた時であったと思います。

記念にいただきました「松花伴鶴飛」の書は、本寺の宝として大切にいたしたく思います。

最後になりましたが、管長様をはじめ、本山の和尚様方、本寺住職様、お世話をしていただきました教区の和尚様方、準備に献身的に取り組んでくださった檀信徒の皆様にご心より感謝を申し上げます。

# 釈尊の足跡を訪ねて

竹林寺住職 牛江宗道

私は、平成十九年十二月六日より十六日に至

る十一日間、妙心寺派龍源寺住職 松原哲明師が主催された、『インド・ネパール四大仏蹟巡拝の旅』に参加して、現代禅研究会の禅僧の方々と三宝会という在家の人々と、総勢三十五名の団体で、悠久の大地インドとヒマラヤ山脈を擁するネパールを旅して参りました。

仏教の開祖・釈尊の故郷を一度は訪ねてみたいという気持ちが高まりつつあった時に、この企画に接し、幸いにもその機会に恵まれた次第であります。

五十数年前、インドを訪ねた作家の堀田善衛氏は、『インドで考えたこと』という本の中で、

次のように言っています。

「人間とその生活、文化文明などについて何等かの意味、あるいはジャンルで、より根本的、根源的なことを考えてみたいという傾きのある人に、私はインドへ行つてごらんなさい、とすすめ。」(岩波新書六十八頁)

仏教は、人間と人生の根源を問い求める宗教であります。堀田氏の言うように、インドには人間と人生の根源について考えさせるものが確かにありました。以下の文章は、一年前に書いた私の旅日記を本にした、私の「インドで考えたこと」であります。

## ① デリリー

私達は、十二月六日深夜午後十一時三十分（日本時間）、インディラ・ガンディー国際空港に降り立ちました。日本の成田から約十二時間、飛行機に乗った疲れの中、デリリーに着きました。何とまあ殺風景な、飾り気のない、国際空港であることかと思いました。そう言えば、エア・インディアの客室乗務員の態度も実に素っ気なく、サービス精神に乏しいものでした。インドは、そんな国なのだろうか。ありのまま、気取らない、そんな国民性の国なんだろうか、そう考



我々の宿ロータス・イン(在 ニューデリリー)と二台のバス

えた次第であります。

入国手続きを済ませ、スーツケースを受けとり、埃まみれの空港（この時期は乾季で雨がふらないため）から、バス二台に分乗して、この日の宿ロータス・イン・ホテルに向いました。バスに乗るとき、現地ガイドのアシユラさんが、黄色いマリーゴールドの花で作られた首飾りを全員にプレゼントしてくれました。また、ロータス・インの到着茶礼は、レモネード水でありました。この甘い水が、長旅で疲れた心に響きました。心暖まるものでありました。

ホテルの玄関口に、野犬が数匹いました。餌を求めて集まって来ているのです。これがまたインドらしいところでしょうか。牛だけが聖獣ではない、犬もまたそうだ、ふとそんなことを感じました。

## ② ヴァーラーナシー

「十二月七日午前五時半、起床。同七時、朝



ラル・バハドゥール・シャストリー空港



ホテル前の風景（乾季のためほこりっぽい）



食。白いお粥<sup>か</sup>とキャベツ炒めが、おいしかった。マンゴージュースも濃くてうまかった。」と、私は旅日記に書いております。

午前八時、私はバス二台でホテルを出発して、インディラ・ガンディー空港の国内線の方へ向いました。飛行機は予定通り離陸せず、十時二十分発が、十一時四十分発と遅れました。これもインドらしいところですね。時間厳守の日本人には考えられないことです。

目的地のヴァーラーナシー(昔はベナレスと言<sup>い</sup>つた)の[LAL BAHADUR SHASTRI(ラル・バハドゥール・シャストリー)「空港へは、一時間十五分着きました。私は、となりの座席のインド人の青年に、英語で、この空港名の意味を尋ねますと、「暴力のない」という意味であると教えてくれました。非暴力を貫いたマハトマ・ガンディーさんのことを思い浮べました。

私は、午後一時二十分、ヴァーラーナシーの空港を出発して、この日のホテルである、「HOTEL Clarks Varanasi(ホテル・クラーク

ス・ヴァーラーナシー)」に着いて、遅い昼食を頂きました。

「インド料理はうまかった。ナンが実にうまい」と私は、旅日記に書いています。このホテルに着くまで、バスの中で、ガイドのアシユラさんが、流暢な日本語で、インドの説明をしてくれました。

「ここウッタール・プラデーシュ州は、米と麦の穀倉地帯で、野菜も豆類もよく穫れる。ベナレスはヒンズー教の聖地である。一生のうち一度でもここにきて、ガンジス川につかることが最高の幸せであると考える。」等々の説明を頂きました。

また、道路沿いには、赤いブーゲンビリアの花が目につきました。車はインドでは、日本と同じく左側通行です。牛ややぎ、水牛が人間と仲よく暮らしている風景も目に飛び込んで来ました。



サルナートのダーメク・ストウーパ



サルナートで説法する仏教僧

### 三 サールナート

昼食後、私達は、釈尊四大聖地のひとつ、回転法輪の地・サールナートへ行きました。サールとは、サランガ(鹿)の略で、ナートとはナート(主)の略です。鹿主の意味があり、また、鹿苑、鹿野苑とも呼ばれているのが、サールナートであります。金閣寺の正式名称が鹿苑寺ろくおんじと言いますが、ここに由来しております。昔は、この地には、大きな精舎や仏殿・塔婆等があったようですが、現在はその遺構だけが残っていて、きれいに整備され、遺跡公園になっております。その中心に立っているのが、ダーメク・ストゥーパと呼ばれる仏塔であります。私達は、この仏塔の前で、般若心経を唱え、一炷の坐を組み、二千五百年前の釈尊のお姿を偲びました。また、サールナートに入る手前に、迎仏塔という大きな塔があります。これは、阿若憍陣あにくきょうじんから五人が、釈尊をお迎えた所に建てられている塔であります。かの『大唐西域記』巻第七にも、



五比丘が釈尊を迎えた迎仏塔(チャウカンディー・ストゥーパとも言う)

迎仏塔について述べられていて、その高さ三百余尺と書かれています。現在見られる塔は、四角形の基壇の上に、一五八八年にアクバル大帝が、その父のために建てた八角形の塔がのつている形のもので、四角い丘という意味のチャウカンディー・ストゥーパとも呼ばれています。

鹿野苑には、現在も鹿がいました。鹿野苑の中ではありませんでしたが、隣接する動物園があるようで、鹿野苑から近くに鹿の姿を見ることが出来た次第であります。

釈尊の四大聖地のひとつサールナートを十二分に堪能して、私達は、ホテル・クラークス・ヴァーラーナシーに帰りました。

### 四 ガンジス河

十二月八日は、釈尊成道の日であります。この日、私達は、午前四時半、起床。同五時半、ホテルを出発して、夜明け前のガンジス河の沐浴風景を見学に行きました。



夜明けのガンジス河とガートの風景

ガンジス河には、ガートと呼ぶ沐浴場が八十八ヶ所あります。不思議にも、四国八十八ヶ所の霊場巡りの数と合致しております。私達は、そのうちのひとつのガートから舟に乗って、ガンジス河を散策しました。薄明かりのガンジス河は、非常に幻想的であり、又幽玄でありました。ガンジス河の対岸は、まったく見えません。中洲が見えました。川の流れは、乾季のためか、ゆるやかでした。魚も飛び跳ねていました。ガートの後ろには、ヒンズー寺院や立派な館が見えます。また、火葬の火柱も見えました。しかし、日が明るくなって来ると、ガンジス河の汚さが目につくようになります。少し興ざめました。また、ガンジス河の水は、硫黄を含んでいるので、腐らないそうです。お供えの水として、もち帰る人も多いと言っていました。

ここで、ヒンディー語を少し紹介しましょう。

チヨロチヨロ(行け、行け。)

ダンナワード(ありがとう。)



夜明け前のガートにおける階段

御親教  
感想文

## 管長猯下の御親教に接しまして

—— 壽福寺檀信徒総代役員 澤田信三

昨秋、園松寺の本田住職より、大本山の管長様が御親教の為、若狭全域の寺院に三年間にわたって御成りになられる、何年に一度とか六十年に一度と言うものではなくて、壽福寺においては開山以来の事、一度拝顔の榮に浴し、御親教なるものを拝見させて頂くべしとご進言有り、昨年若狭本郷の潮音院様に参列させて頂きました。

来年は高浜へ御成りに成る、よく勉強しておくようにとの事、時間は一年有るとゆっくり構えていましたが、三六五日は短くあつという間に終わりました。

二五〇年前に旧庵を建立されたと申ししても、年月は経っておりまして、古くて小さなお寺でした。檀信徒が揃って永年積立てまいりました建築積立金と、篤志家の多大なご寄付を仰ぎ、十六年秋に平成の大修築と銘打って、本堂を新しく致しましたのが間に合いました上に、管長猯下御親教記念として、今年夏には入口の御門を少し広げて、新しく致しました小庵ながら、それなりに慎ましくても間に合ったと檀信徒一同喜んで居りました。

いよいよ、今年の御親教の日が近付いてまいりまして、円福寺様から三ヶ日をかけて、十一ヶ寺を歴訪され、最終日の九月三十日午前九時に、壽福寺に江上宗務総長様、佐分教学部長様、矢野教学部員様共々、有馬管長猯下が、開山以来初めてこの小さなお寺にお越し下さいました。

お疲れのご様子も無く、こぼれるような笑みを湛えられ、思わず誘われるように、ようこそお越し下さいましたと両手を合わせました。

若洲高浜に、寺町と言う南北の通りが有り、長福寺様から壽福寺までの四ヶ寺が並ぶ、あの細い、車一台がやっとと言う通りですが、檀信徒、寺庭が皆一様に少し緊張しながらも、微笑みながら手を合わせてお迎え致しました。

茶礼の後、本尊様御回向、開山御回向、檀信徒御先祖様へ御回向と、流れるように進んで参りました。御法話に先立ちまして、まぢかに目と目を合わせる様に、『旨く運営されて、心のこもった手入れがされている』とお褒めのお言葉を賜り、年甲斐も無くもう少しで涙、かろうじて涙腺を熱く致すに止めました。

世界平和を第一義とされておられる管長猥下より、当寺の名前である無量山壽福寺に因んだ、無の心、禪の心、達磨大師、仏法の根源に触れる法話を戴き、何気なく仰いでいた額が、三代前の管長様のお筆になるものと、また欄間の模様にもお目をとめられ、小さなお寺であるが由緒ある寺、今後益々の精進を、そして本山へも来て下さいよ、とお言葉を結ばれました。

余りの感激と感謝の念に身の震えるのを禁じ得ず、四三〇年開山有史以来の御親教に接しまして、改めて自らの心に深く、この小さなお寺が、檀信徒の心の拠り所と成る様、微力ながら務めなくてはとの思いを新たに致しました。

自ら小さな寺と練り返し申しましたが(確かに小さいのですが)、若洲高浜の丹後、若狭路に、昔から有名な立石のお地藏様建立に由緒を持つ千坂家。高浜町に原子力発電所を誘致され、町を一大飛躍されました先々代町長濱田家等、檀家さんも由緒を質せば人後に落ちず、ご先祖様に叱られる事無き様、小ささに拘る事は無くして行こうと自戒した次第でした。

隣接の四ヶ寺に終日ご滞在、今頃はあのお寺にわざわざすかと、子が親にまわりつくようにお側を離れがたく、最後までお側に行ったり来たりの日

でした。

管長猥下はご壮健に有らせられるようですが、昭和シングルとお聞きします。円福寺和尚田中師の同級生の小生、恐れ多くもほぼ同年代でしょうか、自らを省みて修行の足りなさを恥じ入るばかりですが、いつまでも我々の心の灯火で有られます様、くれぐれもご無理の御座いませぬように、御身御自愛專一の程をお祈り申し上げます、この度の御親教に、末席をけがす栄誉に相い遭う事が出来ました事に對しまして心より有難く、感謝申し上げます。

末筆ながら、御随行の江上宗務総長様、佐分教学部長様、矢野教学部員様始め、万端のご指導をくださいました相国寺派各寺院、御住職様方におかれまして、ご健勝を祈念いたしまして、深く御礼を申し上げます。

有難う御座いました。

合掌

御親教  
感想文

## 御親教を拝して

養江寺檀信徒代表 磯野 益保

初秋の候山の草木も秋らしく色づき、気候もようやく涼しくなつて来ました今日此の頃、大本山相国寺での全国檀信徒御一同の皆さま方には、日頃益々御健勝の事と心よりお喜びを申し上げます。

さて当山養江寺におきましては昨年度に住職田中和尚様より大本山相国寺管長猥下有馬様、宗務総長江上様、教学部長佐分様、教学部員矢野様方御一行が若狭地域での御親教にお回りされますとの事をお聞き致しました。

なお昨年度は大飯地域を回られまして本年度は高浜地域であり、私達檀信徒一同一丸となり万全の準備致しまして、管長猥下御一行のお越しを、楽しみにお待ちを致していました。

当日になり(九月三十日)午前十時二十分に当山養江寺へ管長猥下御一行の方々がお越し下され、檀信徒一同門前にてお出迎えを致す事が出来ました。その後本堂にて一度休憩をしていただき、休憩後本堂にて御丁寧なるお経、三経(般若心経、消災呪、開甘露門)を拝し私達檀信徒一同感謝の気持ちでいっぱいでありました。なおその後お経が終り御法話を始め

られます事と思つていました所、当山養江寺前住職佐藤心契庵主様及び、第一子を育てられました佐藤心弦庵主(京都靈鑑寺)住職御前様二名のお方をきめこまかく、丁寧にお話をされていらつしやいました。その時私達一同は一瞬目に涙を浮べた次第で感謝感激でありました。

なお御親教での御法話に入られましたして仏教とはお釈迦様の教えがインドより発祥し、中国大陸をへて朝鮮半島から日本へ伝来致しましたとの事であり、お釈迦様の申されますのには、すべての生物は地球より生命をいただいており、その生命を大切にし動植物人類を敬う心をもって下さいとの事であり

ます。

今日では全世界の人類は逆に地球を破壊し自分達の思うように支配をしているとの事であり、その考えは間違っていると申されまして、私自身大いに反省を致した次第です。

最後に私達檀信徒一同、大本山相国寺にたいして今まで以上に御協力と御支援を致しますと共に、当山養江寺におきましては子供から孫子末代までも

お釈迦様のお教えを末永く伝えて行きます。

どうか今後共管長猥下御一同の皆さま方の御健勝と御多幸を心よりお祈り申し上げますと共に大

本山相国寺の御発展を念じ申し上げ、私の感想文と致します。

平成二十年十月十二日

御親教  
感想文

## 長養寺御親教に思う

長養寺檀家総代 一瀬明宏

平成二十年九月三十日、御親教のため大本山相国寺より有馬管長様、江上宗務総長様、佐分教学部長様御一行様を長養寺にお迎えできましたことは、檀徒にとりましてこれ以上の喜びはありません。また長養寺は有馬管長様よりご法話で詳しくご紹介いただきました高祖釈宗演、越溪両和尚の菩提寺でもあります。管長様が墓碑にお参りいただきましたことは、昨年八月に他界いたしました亡き父がどんなに喜んだであろうと思えますと、目頭が熱くなり感激も一人でごさいました。幼き頃より祖父や父から相国寺との深いご縁を聞かされ育ちました私にとりまして、菩提寺でご一行様をお迎えさせていただけましたことは身に余る光榮であり、誇らしくありがたく感謝申し上げます。また、身が引き締まる思いでいっぱいでした。

余談ではありますが、禅宗には臨済、曹洞、黄檗と三つの派があります。福井県には曹洞宗の本山永平寺がありますが、なぜかこの高浜には曹洞宗の寺院がなく(隣町おおい町にはあります)禅宗は臨済宗しかありません。両和尚との関係が深くこの地に根付いているのではないかと思ひ巡らしているのは、私だけでしょうか。臨済宗と高浜町の深い歴史をたどり、祖先を敬う尊い心が子孫繁栄につながる教えをいただいた、よい機会を今回おつくりいただけただけではないかと思っております。また、江上宗務総長様におかれましては、高浜町上車持ご出身でいらっしゃいますとのこと、相国寺様とのご縁が今でも深く続いておりますことも二重の喜びでございます。

このたびの御親教は、末寺とのつながりや檀家との仏縁をより深め、大変意味深く尊い行事であると思っております。

思えてなりませんでした。檀家の皆様方との結束力が深まりましたことも大きな喜びでありました。池田檀家総代様をはじめ、役員の皆様、そして檀家の皆様方のご協力に深く感謝申し上げますとともに御礼申し上げます。

有馬管長様におかれましては、今後ますますご健勝でご活躍されますよう心よりお祈り申し上げます。

平成二十年十月二十日

御親教  
感想文

## 長福寺御親教を拝して

長福寺総代 鯛取 勇

暑さ寒さも彼岸迄と申しますが十月に入ってもあまり気候の変化を感じませんが、木々も色付きはじめ秋から冬への足音も早いようにも思います。

そう言う中で、まだまだ残暑の若狭路高浜へ遠路はるばるの大本山相国寺より有馬頼底管長猥下、江上宗務総長様、佐分教学部長様、及び四教区高浜町内の和尚様方が当寺にお越し頂き、誠に有難く感謝申し上げます。心配していた天候も好天に恵まれ午後二時四十分、管長様御一行は本堂前庭で大勢の檀信徒がお迎えする中、親しく会釈をされながら本堂の中へ入って行かれました。そして本堂全部今回新調した畳で(高田長蔵様供養)午後三時より法要が始まりました。

本尊回向、開山回向、檀家回向が厳肅に執り行われ、引続き管長様の法話が始まりました。管長様には長福寺の先代正憲和尚様との若かりし頃の忘れられない思い出話と、現住職典英和尚様をよろしくお願ひしますとの有難いお言葉を頂きました。又一方では最近の国際社会における日本の立場と役割、更には憲法第九条に基づく平和な社会を目指して講演され、続いて江上宗務総長様からは、高浜町車持の出身であるという昔の思い出話と、成せば成る成さねば成らぬの忍耐努力の積み重ねをユーモラスに話されました。

すばらしい見応えの有る御親教に出会い、その中で感じた事は、年を重ねるにつけ光陰矢の如しを実

感じている今日この頃、人生とは色々な風景を見ながら流れ行く川の様なものだと思います。そこには山有り谷有りの喜怒哀楽、いわゆる喜んだり悲しんだり怒ったり、又ある時には恥をかき悔し涙を流し、時は流れて行きますが、その中で世間と言う目に見えない巨大な流れの中を人間は浮き沈みしながら色々な事を経験し、学びながら助けあい支えあい成長して行きます。そう言う中で人はだれでも明るく健康で長生きをして、長寿を全うしたいと言う願望が有ります。多くの人と人との出会いとふれ合いと、あたたかさを千の風と共に大切にしたいと思えます。

最後になりましたが、私の生れ育ったふる里高浜町は福井県の西端に位置し、西に秀峰青葉山、その裾野より東に延びる白砂の海岸線と紺碧の海、そして南側に連なる緑の山並が見事に調和した大変美しい町で有ります。

この恵まれた自然の中に先人たちは太古より営々として、その基礎を築き上げて来ました。その努力の跡が町内のあちこちに遺跡として又、文化財として残されています。

これらの得難い文化遺産からふる里の古い歴史を学び理解を深める事によって、人との出会いと交流を深めて行きたいなあ……と、思う次第でございます。

今回の御親教日程の最後と言う事でしたので管長猥下ご一行様には、ゆつくりとおくつろぎ頂きたいとは思いましたが、京都迄のお帰りと言う事で四時五十分、檀信徒一同でお見送りを致しました。その時に管長様の法話もさることながら、管長様に合わせてもらって一生の思い出になって良かったとの皆様の声を聞き、今日は本当に意義有る一日をお務め出来、感無量でございました。

檀信徒一同 合掌

法道軒理

よえ  
幸

〒604-1835  
京都市中京区大宮通錦上ル  
電話〇七八二二一三八七二

# 成人の日に思うこと――

演劇塾 長田学舎 粟津もと

二〇〇九年の新しい年が明けました。森羅万象―宇宙の生命ある全ての物が、精気を漲らせ、躍動する年明けです。

年々歳々、世界も日本もめまぐるしく変化していく中で、年明けを迎えた「人の心」は変わる事なく、改まり、引き締まり、清新の気に満ち溢れます。そして誰も皆、一様に一年の計画を立て、実行する事を心に誓います。これは年明けの生活の中で、希望と夢が芽生えて心がはずむ嬉しい事です。

今年も間もなく新成人が誕生します。各市町村の公共団体は成人式を開催して、新成人の首途かみでを祝福し、新しい人生への航海に激励を贈ってくれます。この新成人達は、「今年が特別の年」と、真剣に考えてしっかりと心に誓うのではないかと思うのです。これが新成人として当然の思いであり、考え方であると、今日まで人生を歩んで来た大人としては、そうあつてほしいと思つていますし、願つているのです。併し中には考えられないような行動をとる若者がいるのです。ほんの一部のわずかな人数なのですが、成人して恰も自由を勝ち取ったような解放感一杯で、傍若無人に騒ぎ立てたり、暴言をはいたり、お酒を喇叭飲みしたり、目に余る行動が、必ずといっていいくらいテレビのニュースに出て来ます。それを見る度に悲しくなり、心が冷たくなって、不安を覚えるのです。「この人達はほんとうに次の時代を背負つていけるのだろうか」と。

満二十才を迎えて成人になると、選挙権が得られます。自動車の運転も許されます。お酒も飲めます。煙草も喫えるのです。これ等は立派な大人として社会の中で生きていくからこそ許されることなのです。社会生活のルールをしっかり守つて、自覚と義務を持って、責任を担つて生きていかなければ成人とはいえません。

ここで今も鮮明に心に残つているのが、亡き師長田純先生から聞かせていただいたお話です。

かつて日本に軍隊が存在していた第二次世界大戦の末期の頃です。長田先生は陸軍航

空隊の特別攻撃隊長を務めておいででした。戦況は日々悪化していき、特攻隊員の出撃は頻繁になるばかりでした。特攻隊員は出撃命令を受けると、落下傘を返納して、片道燃料だけで敵の軍艦に飛行機ごと突っ込んでいかなければならないのです。隊長である先生は軍の上から出撃命令が下りて来ると、若い特攻隊員を次々と送り出されました。『その時はほんとうに苦しかった。ただ「成功を祈る。自分も必ず後から行くからな」そういうしか仕方がなかった』といつておいででした。

そんな或る日、一人の少年航空兵が「出撃命令」を受けたといつてやって来たのです。小さな風呂敷包み一つ持っていただけでした。年令は十六才(満十五才)でした。

翌日、出発の時刻に先生はその少年航空兵を見送るべく、二人で飛行機の近くまで歩いて行かれました。出発準備が完了した飛行機はプロペラを回して少年航空兵の搭乗を待っていました。「言つておく事はないか」とおっしゃる先生に「何もありません。行つて参ります」不動の姿勢で拳手の敬礼をすると、駆け足で飛行機まで行つて足をあげて乗り込もうとしたのですが、又、先生の方へ走つて来ると、「どうした。忘れ物か」急いでたずねられた先生に「いえ。自分は十六才であります。せめて二十才になって、大びらに煙草を喫つてから死にたかったです」。いい終るやくるりと踵を返して、一気に飛行機に乗り込むと、特攻機が集合する浜松沖上空へと飛び立って行きました。この時先生は「可哀そうに……」と思つた」とおっしゃつておいででした。先生の眼はかすかにうるんでいるようで、血を吐くような切ない心があふれていました。

戦後六十三年―いろいろな問題をかかえてはいても、今日の「平和である」といわれる日本の礎になつて下さったのは、日本の国の為に、同胞を守る為にと尊い生命を捧げて下さった方々なのです。この成人になるのを待たずして逝かれた人たちには「自分の意志で存分に生きていきたかったですね」と、深い感謝とひたすら鎮魂を念じるばかりです。

もう一つ、心に残っているお話しを記したいのです。それは二〇〇五年四月二十五日午前九時十八分頃に発生した、J・R福知山線の塚口〜尼崎駅間の脱線事故にあった一人の男子学生のお話しです。

その人は同志社大学に入学したばかりの一年生でした。この重大事故の事をマスコミ各社はいろいろな形で取材していましたが、その中に男子学生を一年間密着して撮り上げたドキュメントの放映があったのです。

あの日電車の二輛目に乗っていて事故にあいました。気がついた時自分の周囲がどうなっているのかわかりませんでした。無惨に壊れた電車の中で両脚が何かの下敷きになって全く動かないのです。聞こえて来るのは悲鳴と呻き声と、大きな怒鳴り声が交錯し、それに追いかぶさる様に怪我をした人達を助け出す機械の音でした。幸い両手は動かせるので、携帯電話を探し出し、金沢へ単身赴任されているお父さんに電話をしたのです。お母さんを驚愕させて不安に陥れてはというお母さんへの思いやりと、一家の大黒柱であるお父さんに直接いうべきだと判断した冷静さを持っていたのです。

お父さんは直ぐにJ・Rの方へ電話をされましたが、救出されたのは事故発生から二十二時間たってからでした。この時すでに両脚は壊死していました。恐怖と不安が募り、おそいかかる激痛に耐え乍ら、まさに極限の状態で救出される時を待ち続けたのでした。

地獄の底から九死に一生を得て生還した喜びも束の間、両脚は切断される事になりました。

両脚を失った時から、悲しみと憤懣、絶望と苦悩の日が始まりました。両親にも弟にも全く口を利かなくなりました。そんな中で毎日のように病院へやって来て見舞ってくれたのが、一人の親友でした。彼が少しずつ重い心の扉を開いていってくれたのです。親友は「来年の成人式には出席して沢山の友達に会う事」を勧めてくれました。併し「行っとうどうなる。自分がみじめになるだけだ」と閉ざした心はなかなか開きませんでした。

それでも親友は成人式に出席するよういい続けました。すると少しずつ心の扉が開き始めたのです。「行ってみようか」と心が動き出したのです。

年が明けて二十才になる年を迎えました。すでに成人式に出席しようと心は決まっています。でもまだ久しぶりに会う友人達は「どんな目で見るだろう」「どんな風に思うだろう」と、臆病が頭をもたげて来て迷いましたが、心に決めた通り、兎に角出席することにしました。

成人式の当日久しぶりに沢山の友人と会いました。懐かしい笑顔でした。明るい声でたのしい会話がはずみました。教室で机を並べて授業を受けた頃が一瞬にして甦って来ました。あたたかい和やかな空気の中には、憐憫の情こころななど微塵もありませんでした。

帰り道「出席してよかった」としみじみ思いました。成人式に出席した後次第に心身共に前向きに生きようと動き始めました。車椅子で大学へ通い出しました。

事故から一年が過ぎた或る日、両親に大学の近くにアパートを借りて、一人で生活したいといったのです。もちろん両親は不自由な身体を心配して猛反対でした。けれど決心は堅く揺きませんでした。一人で限界まで出来る生活をして、将来誰にも迷惑をかけず、世話にならずに立派に生きていけるようにしたいからだといったのです。そして懸命に勉強して公認会計士の免許を取得すると言いつつ切ったのです。

事故から三年半が過ぎました。大学生活も来年は四年になります。現在はどうかされているのかわかりません。けれど、あの事故からの一年はまさに想像を絶する毎日でした。その中で強固な意志と磨き澄まされた理性と冷静さが培われて来たと思います。今はきつと両親に誓った「立派に一人立ちする事」を目標に、心の中の大地にしっかりと足を踏みしめて着実に歩みを進めておられるであろうと信じております。

大きな幸せに包まれて人生を歩んでいかれますよう、心より祈っております。



○臨黄総会

六月二十五日天龍寺において臨黄総会並びに布教団理事会が開催され、江上宗務総長、佐分教学部長、澤財務部長が出席した。

○知床毘沙門堂・太子堂・観音堂法要

六月二十九日、北海道斜里町知床知布泊村において、毘沙門堂・太子堂・観音堂法要が厳修され、有馬管長、坂根庶務部長、山木鹿苑寺執事長、矢野教学部長、二教区竹林寺牛江宗道住職が出頭した。この法要は相国寺の他に京都仏教会、法隆寺、中宮寺、日蓮宗、曹洞宗の寺院等が知床の自然保存、世界平和を祈念し宗派を超えて毎年行っているもので、法要後は有馬管長、法隆寺大野玄妙管長、東京下谷の日蓮宗法昌寺、福島泰樹上人の三師による



右は法隆寺大野玄妙管長と、中宮寺日野西光尊門跡

法話があった。その後は地元の大勢の方々で野外食事で親睦を深めた。翌三十日は早朝より知床半島の番屋まで出向き、漁師の方々と共に航海安全祈願の法要を行った。

○衆団得度式

七月二十九日相国寺派にとっては十五年振りの衆団得度式が挙行され、今回は女性二人を含む八人が受戒した。式に先立ち書院で戒師相見を行い、引き続き方丈での式に臨んだ。江上宗務総長や随喜寺院、戒徒親族が見守る中、佐分教学部長司会のもと厳粛に行われ最後に全員が戒師の有馬管長より持鉢と安名を授かった。最年少七歳を含む全員は終始緊張しながらも、仏弟子としての第一歩を印した喜びをその表情に表わしていた。式終了後は書院に席を移しお祝いのお齋を頂いた。



管長より安名を授かる

参加者名は左の如し。

- 第一教区 瑞春院徒 瀬古太郎、普廣院徒 山木陸生
- 第二教区 無礙光院徒 阪口美幸
- 第五教区 霊雲寺徒 三代光汰・三代明香里
- 第六教区 龍源寺徒 田中正明
- 南洲寺徒 矢野尊信・矢野真義



○暁天講座

八月二日、三日の二日間方丈において恒例の暁天講座が室町市政協力委員会との共催により開催された。午前五時半より六時まで坐禅、その後法話。そして大書院にて粥が振舞われ七時に解散となった。本年の講師は二日



が有馬頼底管長で演題は「禪と五山文化」、三日が花園大学教授佐々木閑氏で演題は「釈迦の教えとはなにか」であった。両日で延べ二百人を超える参加者は早朝より坐禅、法話に熱心に取り組み、飯台座での粥を禅の作法に従って喫した。



○台湾臨濟寺大雄宝殿修復落成大典

八月二十七日台北市内にある鎮南山臨濟護国禪寺(妙心寺派・釈真光住職)で大雄宝殿の「修復落成大典」が厳修された。当寺は大正八年四月二十三日に相国寺派第四代山崎大耕管長が住職として着任され、翌年三月には台湾布教監督にも就任され、大正十年四月十九日にまで住していた。(大正十年十月九日に相国寺住職に就任)そういう因縁でこの度は相国寺派からも出頭した。当日は馬英九台湾総統臨席のもと、妙心寺派東海大光管長導師により大般若が奉読され、引き続き有馬頼底管長導師のもと開山・歴代の諷経がなされた。本派からは江上泰山宗

務総長、光源院(荒木元悦住職)、長栄寺(鈴木景雲住職)、林光院(澤宗泰住職)、竹林寺(牛江宗道住職)、桂徳院(小出量堂住職)、大光明寺(矢野謙堂住職)、普廣院(山木雅晶副住職)、慈照院(久山哲永副住職)、そして本山用達会相楽社からも五名の参加があった。また今回の法要に際し相国寺派より臨濟寺大雄宝殿前に金色の大香炉と有馬管長筆「無事貴人」の扁額が寄贈された。尚妙心寺派からは東海管長他、靈雲院住職則竹秀南老師、細川景一宗務総長、同派末寺や檀信徒多数が出頭し、大徳寺派南宗寺僧堂師家田島碩應老師、東福寺派青木謙整宗務総長、黄檗宗林晋堂宗務総長等も出頭した。台湾臨濟寺は戦前妙心寺派であったが、この落成式を機に正式に同派に復帰した。修復された大雄宝殿は日本様式の木造建築でこれを機に今後の日華仏教交流一層の発展が期待される。

有馬管長の香語と、法要前日に行われた祝宴での挨拶は左の如し。

當寺開山大和尚及歴住諸大和尚

傳來佛祖不傳傳 傳來の佛祖不傳の傳  
興盛臺洲滴滴禪 臺洲に興盛す滴滴の禪  
檀信傾誠應恩義 檀信誠を傾て恩義に應ず  
法燈増焰界三千 法燈増焰す界三千  
頼底九拜  
定中昭鑑

法要前日祝宴での管長挨拶

臨濟宗相国寺派管長 有馬頼底

此のたび、台北の臨濟護国禪寺大雄宝殿の修復落成の慶事に列席することができましたこと、相国寺派一同、心より御祝辞を申し上げます。臨濟寺は明治三十三年に梅山玄秀老大師の開山により、創建されたと伺っております。この臨濟寺の第三世に相国寺第四代の管長山崎大耕老大師が、若き日大正八年四月二十三日に住職として着任され、翌年三月に台湾布教監督に就任され、十年の四月十九日に臨濟寺を辞し、十月九日に相国寺の住職に就任されたのであります。最晩年に侍衣として仕えた私に、よく台湾時代の話をなつかしうに話されておられました。当時は妙心寺派の布教師として活動されていたのですが、承りますとこの度、妙心寺派として復帰されることので、重ねがさねお慶び申し上げます。

この度の修復落成は、中国佛教会と日本の臨濟宗との新しい世代における新しい中日友好、仏教交流が花開く悠久の未来に向かって更なる友好親善にいよいよ精進努力いたさねばと思うのであります。

最後になりましたが、臨濟寺修復にお力添え頂きました中国佛教会前会長釋淨心長老、住職の釋真光長老、台北市当局関係各位にたいし深甚の感謝を述べ、本日ご列

席の諸先生方の健康と中日両国の益々の発展、仏教興隆を祈念してお祝いのご挨拶といたします。

謝意謝意



大雄宝殿内法要(導師有馬管長)



修復なった大雄宝殿



本派より寄贈された大香炉



管長揮毫

○前堂転位式

九月一日大通院住職小林玄徳老師(韜光室)の前堂転位式が挙行された。小林老師は、相国寺僧堂で修行を積まれ、五月にご遷化された田中芳州前住職の法嗣である。今後の雲納接化はもとより新たな宗風挙揚に大きな期待が寄せられている。  
拜塔香語は左の如し。

圓明塔拜祖庭丹 九月初晨愧釣竿  
喜得年山一家陸 菊花秋意托身安

○布教団理事会

九月九日天龍寺において布教団理事会が開催され江上総長と佐分教学部長が出席し、平成二十一年度巡教配置案や第五回特別住職学布教研修会実施等について審議がなされた。

○秋期特別拝観開始

九月十五日(月)より本山秋期特別拝観が開始され、法堂、方丈、宣明(浴室)が一般に公開された。会期は十二月八日(月)までである。

○第六回管長御親教

九月二十八〜三十日、平成二十年度管長御親教が行

五十周年を記念してパリ市と京都市の依頼により、この度の運びとなったものである。(詳細は巻末カラー参照)

○西光寺団参

十月二十五日五教区西光寺(三浦隆心住職)婦人部団参があり三十名が参加した。一行は正午に本山に到着、書院で佐分教学部長の法話を拝聴後引き続き昼食、法堂方丈を拝観後鹿苑寺、慈照寺を拝観して無事帰路に着いた。



佐分教学部長法話

○承天閣美術館展観

承天閣美術館では平成二十年七月二十七日より十一月三十日まで「狩野派と近世絵画展」併催名腕三十撰前期」を開催、期間中約一万三千の絵画ファン・茶道ファンが訪れ賑った。現在は今年の三月二十九日迄の開催で「狩野派と近世絵画展」併催名腕三十撰後期」を展観中である。

○開山忌毎歳忌

開山夢窓国師の毎歳忌法要が十月二十日宿忌、二十一

われた。本年は昨年引き続き第四教区を九月二十八日に円福寺(田中耕宗住職)、常津寺(武田典英兼務住職)、洞昌寺(額川孝生兼務住職)二十九日に桃源寺(武田典英兼務住職)西林寺(額川孝生兼務住職)、壽奎寺(田中耕宗兼務住職)、海見寺(田中耕宗兼務住職)、三十日に壽福寺(本田真人兼務住職)、養江寺(田中耕宗兼務住職)、長養寺(武田典英兼務住職)、長福寺(武田典英住職)の十一ヶ寺を回り、江上宗務総長、佐分教学部長、矢野教学部員が同行した。  
(詳細は巻頭、および巻末カラー参照)

○大通院入院式

十月八日大通院において小林玄徳老師の入院式が挙行され、管長始め国泰寺派澤大道管長、南禅寺派光雲寺田中寛洲老師、江上泰山宗務総長他一山が出頭した。当日は小林老師導師のもと、拈華室老大師の毎月忌諷経に引き続き、大通院歴代の諷経が行われた。その後書院に席を移し、小林老師が入院の挨拶を述べられ引き続き祝斎となり、和やかな内に無事円成した。

○相国寺金閣銀閣名宝展

十月十六日より十二月十四日までフランスパリのプチパレ美術館において相国寺金閣銀閣名宝展が開催された。これは日仏交流百五十周年、京都市パリ市友情盟約締結

日半斎の両日にわたり厳修され、四教区より八十五名(寺院九名)、五教区より四十三名(寺院一名)、六教区より感心寺(芝原一三住職)良福寺(芝原一三兼務住職)二十五名の団参があった。二十一日には九時より法堂において韜光室老大師導師のもと献粥諷経にはじまり、諸堂焼香、奠供十八拜が行われ、引き続き檀信徒、本派寺院、天龍寺一山、各山重役、他宗派尊宿の順に一堂し、管長猊下導師のもと出班焼香に引き続き楞嚴行導が厳修された。  
管長猊下香語は左の如し。

開山忌毎歳忌香語

円明塔焰発光輝 円明塔焰光輝を発す  
祖道香雲天下稀 祖道の香雲天下に稀なり  
今猶歴掌有清機 今猶を歴掌清機有り  
祖翁心印是黄金 祖翁の心印是れ黄金  
定中昭鑑 頼底九拜

○少林寺団参

十月二十三日三教区少林寺(藤田宏巖住職)の団参があり、佐分教学部長の案内で三十名が法堂、方丈、宣明を拝観した。  
(詳細・写真は教区だより参照)

○寺院婦人研修会

十月二十八日(二十九日まで)第二十八回寺院婦人研修会が行われ、各教区より二十一名の寺院婦人が参加した。二十八日午後十二時半参集、一時より方丈で本尊・開山各諷経後江上宗務総長の開会の挨拶、管長猊下訓示があり記念撮影の後大書院にて全員坐禅を行った。三時半からは関西大学文学部原田正俊教授による「鎌倉時代の禅宗と社会」という演題で講演があった。翌二十九日は早朝より奈良県斑鳩の法隆寺と中宮寺を参拝し、法隆寺では大野玄妙管長法話の後釈迦三尊像、百済観音、宝物殿等を拝観、中宮寺では修了式を行い、日野西光尊門跡法話の後お齋を頂いた。その後半跏思惟像で有名な如意輪観音、非公開の書院襖絵等を拝観し、無事散会となった。尚本年は多数の参加者があり例年以上の盛り上がりであった。

参加者名簿

- 一教区 須賀衣代(瑞春院) 荒木寛子(光源院)  
久山順子(慈照院) 澤万里子(林光院)
- 山木佐恵子(普廣院) 草場容子(慈雲院)
- 平塚久恵(養源院) 佐分淳子(豊光寺)
- 山木喜要子(普廣院)
- 二教区 鈴木典子(長栄寺) 阪口美幸(無礙光院)
- 四教区 田中智津子(円福寺) 鈴木登美(向陽寺)
- 石崎典子(海岸寺)

○再住職、住持職授帖式

十一月六日本派では二十年振りの法階授帖式が挙行され再住職、住持職を十八名が稟承した。管長はじめ江上総長他一山尊宿が臨席する中、始めに再住職四名に對して公帖が授与され、鈴木元拙向陽寺住職が代表して受領した。引き続き住持職十四名に公帖が授与され、小林玄徳大通院住職が代表して受領した。十八名はこの後一山とともに開山堂を拝塔、鈴木元拙向陽寺住職が全員を代表して焼香、大悲咒一卷を諷誦し全書院にて祝斎となり無事円成した。法階稟承者名は左の如し。(法階登録順)



再住職稟承 向陽寺 鈴木元拙住職

《再住職》

- 鈴木元拙(向陽寺住職) 久山隆昭(慈照院住職)
- 緒方香州(長得院住職) 阪口慈航(無礙光院住職)

《住持職》

- 小林玄徳(大通院住職) 石崎靖宗(海岸寺住職)



住持職稟承の  
大通院 小林玄徳老師



管長と触礼



- 五教区 三代典子(靈雲寺) 福場由紀子(萬福寺)
- 六教区 矢野八恵子(南洲寺) 芝原由紀子(感応寺)
- 近藤洋子(良福寺) 松本三津子(光明寺)
- 松下知子(永徳寺)



関西大学文学部 原田正俊教授講演

澤 宗泰(林光院住職) 藤田宏巖(少林寺住職)  
 牛江宗道(竹林寺住職) 大谷昌弘(福田寺住職)  
 延本輝典(本誓寺住職) 藤岡牧雄(保壽寺住職)  
 福場宗康(萬福寺住職) 小出量堂(桂徳院住職)  
 矢野謙堂(大光明寺住職) 草場周啓(慈雲院住職)  
 矢野焔恵(南洲寺住職) 大塚月潭(法雲寺住職)

○第二教区団参

十一月十一日第五回二教区団参が行われ、光照寺(荒木元悦兼務住職)福性寺(吉田弘道住職)、長栄寺(鈴木景雲住職)、大應寺(久山弘祐住職)、是心寺(和田賢明副住職)等の引率により三十五名が参加した。方丈で諷経後、江上宗務総長より挨拶があり、その後大書院にて有馬管長の法話を拝聴した。本山食堂で上幸の精進料理による昼食後、法堂、方丈、宣明と承天閣美術館を見学して無事閉会となった。

○真乗寺晋山式

十一月十六日第四教区真乗寺において、五十嵐宗務支所長始め同教区寺院、縁故寺院、檀信徒多数が見守る中、第十七世木下雅教和尚の晋山式が盛大に挙行された。本山からは有馬管長、韜光室老大師、江上宗務総長、矢野教学部員が随喜した。新任職は相国寺僧堂で修行を積み、自坊に戻られてからは長年にわたり布教教化に勤め

○東京維摩会

東京維摩会は大龍窟管長、韜光室老大師とも平成二十年度の禅会をすべて終了した。来年は左記の日程で開催される。

◆二〇〇九年(平成二十一年)東京維摩会日程

管長坐禅会

一月十七日 二月十四日 三月十四日  
 四月十一日 五月九日 六月十三日  
 七月十一日 八月休会 九月十二日  
 十月十日 十一月七日 十二月十二日  
 以上一月は第三土曜、十一月は第一土曜、  
 後は全て第二土曜。但し八月は休会

時間：午前十時半より正午頃迄

内容：「無門闕」提唱、坐禅、茶礼

威儀：坐禅の組みやすいゆったりした服装が好ましい。

老師坐禅会

一月十日 二月七日 三月二十八日  
 四月十八日 五月十六日 六月二十日  
 七月十八日 八月十五日 九月十九日  
 十月十七日 十一月二十一日 十二月十九日

られた。当日式典では有馬管長と江上宗務総長が、また祝宴では韜光室老大師が祝辞を述べられた。新任職の更なる飛躍に大きな期待が寄せられている。  
 晋山の偈は左の如し。

眞乗入庵  
 清澄秋氣鹿王嶺  
 法乳慈恩何以報  
 心香一瓣遍天人  
 歴歴明明乃祖禪  
 右 雅教九拜  
 昭鑑

(巻末カラー参照)

○日田辯財天御火焚祭

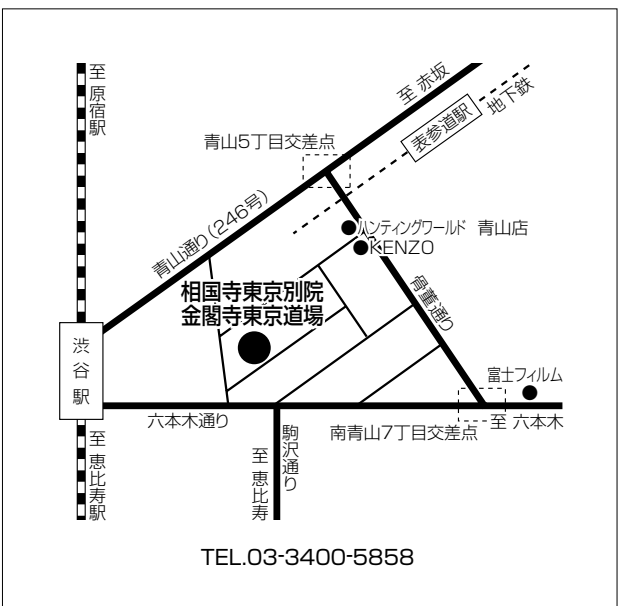
十一月二十三日大分県日田市の西之山妙音辯財天堂において恒例の御火焚祭が開催され、有馬管長、江上宗務総長、山木鹿苑寺執事長、矢野教学部員、須賀慈照寺執事、長沢京都仏教会事務局長、また地元寺院二ヶ寺が出頭し管長導師のもと大般若転読が厳修された。御堂前では護摩木による御火焚も行われ、参加した信者一同は辯財天に焼香し家内安全無病息災を祈願した。

以上一月は第二土曜、二月は第一土曜、  
 三月は第四土曜、後は全て第三土曜。

時間：午後一時より三時半迄

内容：「臨済録」提唱、坐禅、茶礼

威儀：袴を貸与するも、足りない可能性がありますので、  
 ゆったりとした服装でお願い致します。



第一教区

○相国寺金閣銀閣展開会式出席

十月十二日～十八日まで大光明寺(矢野謙堂住職)ではパリ市プチパレ美術館でのオープニング式典(十五日)に檀信徒二十名と二教区桂徳院(小出量堂住職)・同寺庭、三教区福円寺(天谷昌弘住職)、方広寺派高岳寺(小林宗貞住職)が出席した。十六日には有馬管長の記念講演があり現地フランス人や関係邦人とともに全員が拝聴した。大光明寺ではこの度の展観に相国寺第三世空谷明応木像をはじめ徳山問答図(海北友松筆 玉室宗珀賛)や昇鯉図(伊藤若冲筆)など六点を出陳した。

第二教区

○相国会第二教区支部総会

六月二十二日(日)午後三時より、二十八名の参加者を得て、相国会支部総会が、亀岡市の福性寺で開催され



た。行き届いた会場準備をして頂き、誠に有難く思った。今年度は、役員改選の年に当たり、新支部長 波多野諦観氏を選出された。昭和五十七年に結成された当相国会は、二十七年目の新たな年に入った。  
総会に引き続き、懇親会に移ったが、時の過ぎるのも忘れたかのように、談笑し、午後六時頃、散会した。

第三教区

十月二十三日午後、本派第三教区兵庫丹波少林寺檀中で、本山におまいりしたことのない者を中心に、三十人が教理学部長さんから二時間に亘り懇切にご応接ご案内を受け、それぞれ大いに感銘を受けた。その後、承天閣でゆるり展観させていただき四時頃下山した。三年前の御親教の出会いがこころやすさをかもしていた。



第四教区

六月十二日 寺庭婦人会 奉仕作業

六月十四日 宗務支所 御親教説明会(於・円福寺)  
本年度開教寺院総代・役員への御親教の説明・協議

七月七日 南陽寺津送・新忌斎(於・南陽寺)

午前十時より、南陽寺住職 桂寛洲師の津送・新忌斎が厳修された。

九月二日 宗務支所 支所会(於・善應寺)  
本年度御親教及び本山開山忌団参について協議

九月二十日 宗務支所 御親教習礼(於・円福寺)

九月二十八日～三十日 御親教

円福寺、常津寺、洞昌寺、桃源寺、西林寺、壽奎寺、海見寺、壽福寺、養江寺、長養寺、長福寺(十一ヶ寺)

十月二十一日 宗務支所 開山毎歳忌団参  
相国会会員、住職、総勢八十五名が参拜。本山にて昼食後、三十三間堂、二

条城を拝観。

十月二十八日 寺庭婦人会 第二十八回本派寺庭婦人  
研修会  
教区より寺庭三名が参加。

## 第五教区

○出雲相国会親子坐禅会

七月二十三日に恒例となった「夏休み親子坐禅会」を今年も西光寺で開催した。午前六時に集合。ラジオ体操をして富田寺和尚、西光院新命和尚、東光寺新命和尚の指導で坐禅をした。坐禅終了後一同で坐禅和讃を唱和し、今年も女性指導者の方々と楽しいゲームをして解散した。  
(出席者八十名)



## 第六教区

○龍源寺 田中恵山住職の母、先住 故田中関洲和尚の寺庭 田中キワさんが六月三十日享年九十五歳で逝去された。

葬儀は七月二日、廣護寺 井上義堂師の導師のもと、教区寺院出頭の下厳修された。

申間市内仏教会各寺院並びに檀信徒多数の方々が別れを惜しんだ。

○廣護寺 井上義堂住職の母、先住 井上義清和尚の寺庭 井上タマヨさんが七月十九日享年九十五歳で逝去された。

葬儀は七月二十一日、龍源寺 田中恵山師の導師のもと、教区寺院出頭の下厳修された。  
市内仏教会各寺院並びに檀信徒多数が別れを惜しんだ。

○西林院兼務住職 田中恵山師では、十一月四日宿忌、十五日午前十一時半、半斎と、先住 平川徳応師の十三回忌法要を教区寺院並びに縁故寺院を拜請し挙行された。

○南洲寺 矢野焔恵住職では、十一月三十日午前十一時、本堂増改築、不動堂新築、不動明王像修復の落慶法要を教区内若手和尚方を拜請して挙行された。

## 教化活動委員会活動報告

教化活動委員会委員長 佐分宗順

### ◆二〇〇八年度研修会

二〇〇八年度研修会は、前期、慶應義塾大学教授前野隆司氏の講義「脳科学と哲学・宗教」受動意識仮説は脳と心の問題を解決できるのか」に続き、後期は北海道大学の橋本努氏の「経済倫理と現代イデオロギー」の講義が次の日程で行われた。

第一回(四十七回)二〇〇八年九月八日(月)

「経済倫理―あなたはなに主義」

第二回(四十八回)二〇〇八年九月十二日(金)

「グローバル正義論」

第三回(四十九回)二〇〇八年九月十七日(水)

「近代イデオロギー論―ウェーバー中間考察の刷新」



### ◆二〇〇九年度研修会

二〇〇九年度の研修会は次の通り案内いたします。多数のご参加をお願いいたします。

第四回(五十回)二〇〇八年九月二十五日(木)

「潜在能力イデオロギー論―現代日本社会論」

時間 いずれも――講義 午後一時三十分―三時

質疑 午後三時十五分―四時

場所――承天閣二階講堂

### テーマ14 「世界と日本の見方」

講師◎松岡正剛氏

第一回(五十一回)二〇〇九年三月十日(火)

「グローバルイズムと日本」

第二回(五十二回)二〇〇九年五月十四日(木)

「一神教と多神多仏」

第三回(五十三回)二〇〇九年七月十六日(木)  
「編集的世界観」

時間 いずれも——講義 午後一時三十分—三時  
質疑 午後三時十五分—四時  
場所——承天閣二階講堂

尚、都合により日程、演題をやむを得ず変更する場合がありますのでご了承ください。

### ●講師プロフィール 松岡正剛氏

#### 略歴

一九四四年京都生まれ。早稲田大学文学部卒。編集工学者、日本文化研究者。東京大学客員教授、帝塚山学院大学教授を歴任。現在、株式会社松岡正剛事務所代表取締役、編集工学研究所所長、ISIS編集学校校長、連志連衆會理事。

一九七一年工作舎設立、『遊』創刊、日本で初めてのエディトリアル・エディターとして超ジャンルの編集と先駆的グラフィズムを生み出し、アート、思想、メディア界に多大な影響を与える。

一九八七年編集工学研究所を設立、日本文化、経済文化、物語、デザイン、文字、文化、図像学、自然科学など

『白川静—漢字の世界観』(平凡社新書、二〇〇八)

ほか多数

講座ご希望の方は住所・氏名・電話・Eメール・年齢を明記の上、左の申し込み先まで。

### ◆講義録出版案内

二〇〇八年十二月発刊予定

「脳科学と哲学・宗教

—受動意識仮説は脳と心の問題を解決できるのか—

慶應義塾大学教授 前野隆司著

二〇〇九年一月発刊予定

「経済倫理と現代イデオロギー」

北海道大学准教授 橋本努著

講義録ご希望の方は左記までお申し込みください。

申込先 相国寺教化活動委員会

〒六〇二〇八九八

京都市上京区今出川通烏丸東入相国寺門前町七〇一

電話 〇七五—二二二—〇三〇一

FAX 〇七五—二二二—三五九一

ホームページ(<http://www.shokoku-i.or.jp>)

尚、いずれの講座も、講師の都合により日程、演題をやむを得ず変更する場合がありますのでご了承ください。

多方面に及ぶ研究成果を情報文化技術に活用、発展させる活動を開始。

近年は電子ネットワークに壮大な「図書館」を出現させ古今東西の知識情報をつなぐプロジェクトを構想中。

#### 著書

『空海の夢』(春秋社、二〇〇五)

『遊学』(大和書房、一九八六)

『ルナティックス』(筑摩書房、一九九三・斎藤緑雨賞)

『花鳥風月の科学』(淡交社、一九九四)

『フラジャイル』(筑摩書房、一九九五)

『知の編集工学』(朝日新聞社、一九九六)

『日本流』(朝日新聞社、二〇〇〇)

『日本数寄』(春秋社、二〇〇〇)

『おもかげの国うつろいの国』(NHK人間講座、二〇〇四)

『日本という方法』(NHK出版、二〇〇六)

『松岡正剛千夜千冊』(求龍堂、二〇〇六)

『十七歳のための世界と日本の見方』(春秋社、二〇〇六)

『ちよつと本気な千夜千冊虎の巻』(求龍堂、二〇〇七)

『脳と日本人』(茂木健一郎との対談、文藝春秋、二〇〇七)

『誰も知らない 世界と日本のまちがい 自由と国家と資本主義』(『17歳のための世界と日本の見方』の続編)

(春秋社、二〇〇七)

大切な文化財を始め、建物の安全と安心の為努力しています

電気設備工事・消防設備工事

**ADACHI 足立電気工業株式会社**

〒601-8045

京都市南区東九条西明田町34-21

TEL 075-681-4461 FAX 075-681-9767

E-mail: adachi-d@guitar.ocn.ne.jp



<p>大本山相国寺御用達 御法衣・仏具 <b>(株)後藤利法衣店</b></p> <p>〒604-8273 京都市中京区西洞院通三条上ル 電話 (075) 221-4587 FAX (075) 223-0094 フリーダイヤル (0120) 014587</p>	<p>臨済宗御法衣調達 大本山相国寺御用達 <b>湯浅法衣店</b></p> <p>〒606-0905 京都市左京区松ヶ崎杉ヶ海道町5-24 電話 (075) 705-2772 FAX (075) 705-2773</p>
<p>大本山相国寺御用達 庭園 設計・施工 <b>樋口造園(株)</b></p> <p>〒602-8341 京・上京区七本松通中立売下ル 電話 (075) 462-1385 FAX (075) 464-6120</p>	<p>大本山相国寺御用達 精進料理 <b>矢尾 治</b></p> <p>〒600-8486 京都市下京区高辻堀川町358 電話 (075) 841-2144 FAX (075) 841-2110 <a href="http://kyoto-shoujinryouri-yaoji.homepage.jp">http://kyoto-shoujinryouri-yaoji.homepage.jp</a></p>
<p>總本山御用達 <b>藤安田念珠店</b></p> <p>本店・〒604-8072 京都市中京区寺町六角角 電話 (075) 221-3735 (代表) 東京・札幌・福岡 各営業所</p>	<p>文化財堂宇修復保存 大本山相国寺御用達 社寺建築 設計・施工 数寄屋建築 <b>澤甚株式会社 澤野工務店</b></p> <p>本社 〒605-0069 京都市東山区東大路通知恩院前上ル2筋目東入 TEL (075) 561-5394 (代) FAX (075) 533-3775 山科事務所・工房 〒607-8126 京都市山科区大塚元屋敷町62 TEL (075) 541-1257 (F)</p>
<p>貴重な御法衣の御用は 大本山相国寺御用達 <b>後藤新助法衣仏具店</b></p> <p>〒616-8041 京都市右京区花園寺ノ前町30番地 電話(代表) (075) 462-3915番 ファクシミリ (075) 462-3616番 URL <a href="http://www.rinzai.jp">http://www.rinzai.jp</a> E-mail: <a href="mailto:rinzai@rmail.plala.or.jp">rinzai@rmail.plala.or.jp</a></p>	<p>大本山相国寺御用達 社寺建築 <b>(株)北村誠工務店</b></p> <p>〒603-8225 京都市北区紫野南船岡東町45 電話京都 (075) 441-0563 FAX京都 (075) 441-0571</p>



● 編集後記 ●

2009年正月号をお届けいたします。本号は第2回目の第4教区御親教特集となります。今回は若狭地区11ヶ寺という最多の寺院訪問となりました。各寺院から御親教の感想文をご寄稿いただき、有難うございました。

第二教区竹林寺牛江住職からはインド紀行文をお寄せいただきました。誌面を借りて御礼申しあげます。

本山事務局では、昨年女子事務局員長谷川正子さんが退職され、替わって吉富綾子さんが事務局員として就任されました。吉富さんは奈良教育大学教育学部を卒業され、学芸員の資格を持っておられる才女です。今後の活躍に期待したいと思います。

本号は誌面の都合で「宝物拜見」「心のすがた」は休載いたしました。

(佐分 記)

平成21年1月1日

発行所/大本山相国寺・相国会本部

〒602-0898 京都市上京区今出川通烏丸東入相国寺門前町701 TEL 075-231-0301 FAX 075-212-3591  
URL <http://www.shokoku-ji.or.jp> E-mail [kyogaku@shokoku-ji.or.jp](mailto:kyogaku@shokoku-ji.or.jp) (教学部)

なが——い、おつきあい。



良かったなと言える人生。優しい気持ちになれる人生。自分らしく生きる人生。  
京都銀行は、人生のさまざまなチャンスで、気さくにサポートする飾らない銀行です。  
どうぞ、なが——い、おつきあいを。

飾らない銀行  
**京都銀行**  
<http://www.kyotobank.co.jp/>

あなたの、豊かな  
人生のために。

**三菱UFJ信託銀行のライフプラン・コンサルティング**

三菱UFJ信託銀行は資金運用をはじめとする、  
資産全般にわたる運用のご相談を承ります。

資金の運用

不動産のご相談

資産の管理・承継

**三菱UFJ信託銀行**  
MUFJ

京都支店 〒600-8006 京都市下京区四条通高倉 TEL.075-211-7161  
京都中央支店 〒600-8006 京都市下京区四条通高倉 TEL.075-211-1261

届出第6号 (社)不動産協会会員 (社)不動産流通経営協会会員  
(社)首都圏不動産公正取引協議会加盟



社寺庭園・町屋庭園・露地庭  
作庭 管理

**植 昭** 長岡造園

〒616-8305 京都市右京区嵯峨広沢御所ノ内町13-3  
電話 (075) 872-0005 FAX (075) 872-0004

**印刷を極め、印刷を超える**

生産力と機動力、開発力と発想力をもって  
「新しい社会に貢献する企業」を目指します。

ISO27001:2005 認証取得  
UKAS  
ISO9001:2000 認証取得  
日本水なし印刷協会  
認可工場 (環境保全対策)

**ヨシダ印刷株式会社 京滋営業所**  
〒604-8277 京都市中京区西洞院通り御池下ル三坊西洞院町572NOA高松殿ビル6階 TEL.075-252-5421  
[本社]金沢 [支店・営業所・工場] 東京・金沢・大阪・富山・福井・京都・静岡 URL <http://www.yoshida-p.jp/>

[www.shoyeido.co.jp](http://www.shoyeido.co.jp)



**香**

大本山相国寺御用達  
香老舗 **松 紫 堂**

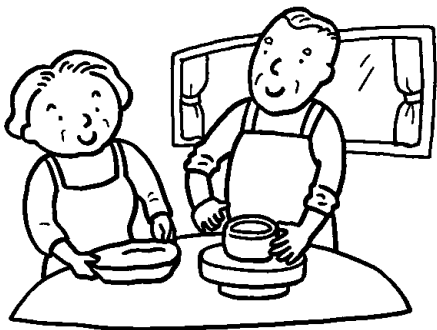
京都本社/京都市中京区烏丸通二条上ル東側 〒604-0857 TEL 075(212)5590  
東京支店/東京都中央区日本橋人形町2-12-2 〒103-0013 TEL 03(3664)2307  
札幌支店/札幌市中央区南8条西12丁目3-6 〒064-0808 TEL 011(561)2307

京都本店 産寧坂店・銀座店 人形町店 青山香房・札幌店

# 中央三井信託銀行

●遺言・相続 ●不動産 ●ローン ●資産運用の総合コンサルタント

自分の意思どおりに遺産を分け与えたい。  
**相続、安心。**



遺言書作成のお手伝いから  
遺言書の保管、  
遺言の執行まで  
ご意思を確実に実行いたします。  
**中央三井の遺言信託**

【遺言信託標準報酬等(消費税等含む)】(平成20年11月1日現在)

●遺言書作成時：基本保管料105,000円および保管料(年間6,300円の月割り計算) ●遺言書保管中：年間保管料6,300円 ●遺言書変更時：変更遺言書保管料52,500円 ●遺言執行時：遺言執行標準報酬(財産の相続税評価額に当社規定の率を乗じた額。ただし、最低報酬は105万円。) 詳しくは窓口までお問い合わせください。

**中央三井信託銀行 京都支店**

〒600-8007 京都市下京区四条通東洞院東入立売西町66番地 届出第7号

**TEL.075-231-8251**

御法衣・御袈裟・御水引・戸帳・打敷

華蔓・御晋山式用品一式・稚児装束

各大本山御用達

## 橋兵 草木兵助商店

〒604-0024 京都市中京区衣ノ棚通御池上ル西側  
電話(075)221-0934番 振替京都01090-4-3476

## 抹茶

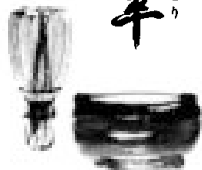
有馬頼底管長御好

御濃茶

萬年のみどり

御薄茶

常光



平成二十年度全国茶品評会 第一位  
自園出品茶 農林水産大臣賞受賞

大本山相国寺御用達

宇治久小山園

(宇治茶製造販売)

本社 京都府宇治市小倉町寺内86

伊勢丹店 ジェイアール京都伊勢丹B1

西洞院店 中京区西洞院通御池下ル

茶房「元庵」もございます。  
<http://www.marukyu-koyamaen.co.jp>

大本山相国寺御用達

## 京表具

絵画・墨跡・織物・修理・一般表具一式  
宗紋襖紙・御殿引手 発売元

こう えつ あん  
**浩 悦 庵**

古文化財保存修理研究所  
矢口浩悦庵

本社・工房 〒602-8025 京都市上京区衣棚通り丸太町上る今薬屋町318  
TEL(075)254-6021(代)・FAX(075)254-6022

東京営業所 〒203-0014 東京都東久留米市東本町9-9 TEL・FAX(0424)72-6239

<http://www.koetsuan.com> E-mail:office@koetsuan.com

# 海見寺

9月29日



総代山本誠氏謝辞



Your Global Lifestyle Partner

～お客様の感動を創造します～

国内旅行

宇宙旅行



海外旅行

大会幹旋

### JTB西日本団体旅行京都支店

〒604-8152 京都市中京区烏丸通錦小路上手洗水町 670 京都フクトクビル 5階  
TEL:075(241)0139 FAX:075(255)6564

(営業時間 9:30～17:30/土・日・祝日休業)



二条城のほとりに

寛ぎがある

## 京都全日空ホテル

〒604-0055 京都市中京区堀川通二条城前  
ご予約、お問い合わせは (075) 231-1155  
<http://www.ana-hkyoto.com>

# 養江寺

9月30日



記念品を受ける田中耕宗兼務住職



熱心に読経する檀信徒



総代常藤博美氏謝辞

# 壽福寺

9月30日



記念品を受ける本田真人兼務住職



総代沢田育雄氏謝辞

# 長福寺

9月30日



記念品を受ける武田典英住職



総代澤田拓郎氏謝辞

# 長養寺

9月30日



総代池田隆太郎氏謝辞



釋宗演禪師生誕の碑拜塔：高浜町若宮





# パリ・プチパレ美術館にて

## 「相国寺・金閣・銀閣名宝展」開催

フランス・パリのプチパレ美術館で「相国寺・金閣・銀閣名宝展」が十月十六日から十一月十四日までの六十日間開催された。

日仏交流百五十周年と京都市・パリ市の友情盟約締結五十周年を記念し、八〇年前に中国から伝わり日本に根付いた「禅」をパリの市民に紹介する企画展。本山相国寺、鹿苑寺、慈照寺他塔頭に伝わる鎌倉時代から、南北朝・室町・桃山・江戸時代迄の墨蹟・絵画・茶道具等、五山文化の精粹を一堂に展覧した。ほとんどの作品が海外初出展で出品数は国宝・重要文化財を含む百点。

十月十五日の開会式には有馬頼底管長、江上宗務総長、坂根庶務部長、山木鹿苑寺執事長、平塚慈照寺執事長、鈴木承天閣事務局長、長沢京都仏教会事務局長等が出席した。

当日は出展されている開山夢窓国師木像に、裏千家鵬雲斎大宗匠による夢窓国師への献茶式と、有馬管長導師による開山諷經（法要）が営まれた。会期中には有馬管長の講演が十月十六日に開かれたほか、茶道は裏千家パリ支部や武者小路千家宗屋若

宗匠、香道は志野流の峰合宗玄宗匠、華道は無双真古流（慈照寺華務佐野玉緒）により、それぞれワークショップや講演で日本の伝統文化が紹介された。また十一月十六日には江上総長が十七日には平塚執事長がプチパレ館内で坐禅指導を行なった。そして展示品とともに注目を集めたのは、凸版印刷がバーチャルリアリティー（VR）仮想現実技術で制作した金閣と銀閣の高精細映像。これはVR技術を駆使して映像内で自由にあらゆる角度から金閣・銀閣を拝観できるもので、承天閣美術館に収蔵されている伊藤若冲障壁画を、VRで本来あった大書院に戻して復元するほか、銀閣（観音殿）は創建当初の漆塗りの姿を再現している。期間中四万人を超える入場者で賑わい、パリ市民が禅文化を満喫した。

現地での展示作業、期間中の展示替・温湿度管理、作品の撤収作業には承天閣事務局長鈴木景雲以下四名の承天閣員が交替で出向した。

### ● 主な出品作品

#### 墨蹟

国宝 無学祖元墨蹟 与長楽寺一翁偈語 四幅対 鎌倉  
 夢窓疎石墨蹟 別無工夫 南北朝  
 春屋妙葩墨蹟 応無所住而生其心 南北朝  
 蘭溪道隆墨蹟 宋元 鎌倉

#### 絵画

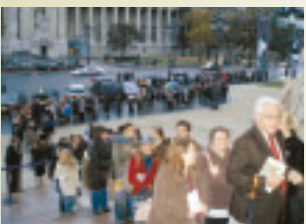
重要文化財 寒山行旅山水図 絶海中津賛 高麗  
 重要文化財 鳴鶴図 文正筆 明  
 重要文化財 牡丹孔雀図 円山応挙筆 江戸  
 重要文化財 毘沙門天図 雪舟等楊筆 室町

#### 工芸品

柿釉瓢箪色絵松竹梅茶碗 野々村仁清造 江戸  
 黄瀬戸珠光天目茶碗 尼ヶ崎台利休在判添 室町  
 唐物小丸壺茶入 青貝盆付 足利義政所持 宋  
 竹茶杓 千利休作共筒 随流斎箱 桃山



10月15日 オープニング



開館を待つ長蛇の列



館内風景



パリ市プチパレ美術館

### 開催概要／承天閣美術館事務局長 鈴木景雲

展覧会名称 日仏交流百五十周年・京都パリ友情盟約締結五十周年記念「相国寺・金閣・銀閣名宝展」京都における禅と美術

会場 パリ市立 プチパレ美術館

期間 平成二十年十月十五日～十二月十四日（六十日間）

主催 京都市・パリ市・相国寺・プチパレ美術館・（財）京都国際文化交流財団

特別協力 京都国立博物館・（財）禅文化研究所・京都仏教会・表千家・裏千家・武者小路千家・日本経済新聞社・NHK・毎日放送・日本航空

後援 在フランス日本国大使館・文化庁

協賛 ダイキン工業株式会社

とわ  
永遠の安らぎ —石のカウンセラー—

株式会社 石 杖 都 みやこ



代表 坪田 忠男

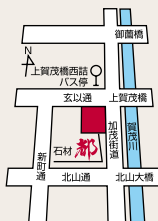
年中無休 営業時間 / AM 8:30 ~ PM 6:00 (日曜日 PM 5:00 まで)

本 社 : 〒603-8103 京都市北区小山北玄以町 24 番地 ヨクソ ヨイシ  
(上賀茂橋西詰バス停前) 電話(075)491-4114(代)

工 場 : 京都市北区上賀茂神山 389 番 24 電話(075)702-2440  
(落北病院バス停前)

夜 間 : 京都市左京区岩倉南池田町 117 電話(075)702-8814

御一報次第、遠近を問わず参上いたします。



記念の祝餅

第四教区真乗寺第十七世  
木下雅教和尚晋山

平成20年11月16日

